

東日本大震災みやぎ子ども育英基金支援金・奨学金を

受けられた皆様からのメッセージ



5歳

宮 城 県

ご あ い さ つ

平成23年3月11日の東日本大震災から1年9か月が経過いたしました。この間、国内外の皆様から物心両面にわたり多くの御支援を賜りましたことに對し、心より御礼を申し上げます。

このたびの震災では、多くの子どもたちも被災したところであり、御両親を亡くされた震災孤児と、父または母のいずれかを亡くされた震災遺児は、宮城県内で、あわせて1,000人を超える状況となっております。

このような状況を踏まえ、県では、震災で親を亡くされた子どもたちが安定した生活を送り、希望する進路選択を実現できるよう、皆様からお寄せいただいた「東日本大震災みやぎこども育英募金」を活用し、大学までの修学等を支援するため、奨学金等を給付し、長期的・継続的に支援を行っていくこととしております。

平成23年7月の寄附口座の開設以降、被災した子どもたちへの支援のため、多くの皆様から、浄財をお寄せいただき、改めまして、心より感謝を申し上げます。

このたび、奨学金等をお届けした子どもたちやその御家族の近況について、御寄附をお寄せいただいた皆様にお知らせしたい旨をお伝えいたしましたところ、たくさんメッセージをお寄せいただきました。皆様の御厚意が、親御さんを亡くされた子どもたちや御家族の支えとなり、未来への希望となっていることの表れと考えております。

県といたしましては、未来を担う子どもたちの健やかな成長のため、引き続き取組を推進していくとともに、震災からの復旧・復興に向けて邁進してまいりますので、今後とも、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

宮城県知事 村井嘉浩

【目次】

○ 子どもたちからのメッセージ

P. 1~12

◆小学3年生から	1
◆小学6年生から	1
◆小学2年生と5年生の姉妹から	1
◆小学3年生と4年生の兄妹から	2
◆小学1年生と4年生の姉弟から	3
◆中学1年生から	3
◆中学3年生から	3
◆中学1年生と2年生の兄妹から	4
◆中学1年生と高校1年生の姉弟から	4
◆高校3年生から	5
◆高校3年生から	5
◆高校1年生から	5
◆高校3年生から	6
◆高校2年生から	6
◆高校3年生から	7
◆大学1年生から	7
◆大学1年生から	7
◆大学1年生から	8
◆大学生(20歳)から	8
◆看護学生(19歳)から	9
◆看護学生(18歳)から	10
◆専門学校生(18歳)から	11
◆専門学校生(18歳)から	12

○ 子どもたちとご家族からのメッセージ

P. 13~46

◆未就学児(3歳)と母から	13
◆未就学児(4歳),小学生(2,4,6年生)と母から	13
◆未就学児(5歳),中学3年生,高校2年生と父から	15
◆未就学児(3歳)と母から	16
◆未就学児(2歳),小学3年生と母から	17
◆小学3年生と母から	18
◆小学6年生と伯母から	18
◆小学5年生と母から	19
◆小学5年生と祖父から	19
◆小学4年生と祖母から	20
◆小学3年生と母から	21
◆小学3年生,中学3年生と父から	22
◆小学4年生,中学1年生と母から	23
◆小学6年生,中学2年生と親族から	24
◆小学4年生,中学2年生,高校3年生と父から	25
◆小学4年生,中学2年生,高校2年生と父から	26
◆中学生(1,2年生)と母から	27
◆中学2年生,高校2年生,大学1年生と母から	28
◆中学3年生,高校3年生と父から	30
◆中学3年生,高校1年生と母から	30
◆中学2年生と母から	31
◆中学3年生と親族から	32
◆中学生(1,3年生),高校2年生と母から	33
◆中学2年生,高校1年生と父から	34
◆中学1年生,高校1年生と母から	35
◆中学3年生,大学2年生と父から	36
◆高校1年生と母から	37
◆高校2年生と母から	38
◆高校生(1,2年生)と母から	39
◆高校1年生と祖父から	40
◆高校1年生と母から	41
◆高校3年生と父から	42
◆高校3年生と母から	43
◆高校3年生と母から	43
◆高校生(1,3年生)と父から	44
◆専門学校2年生と母から	46

◆母から (子ども:高校生, 海上保安学生)	47
◆母から (子ども:未就学児)	48
◆母から (子ども:小学生)	48
◆母から (子ども:未就学児)	49
◆母から (子ども:未就学児)	49
◆母から (子ども:大学生)	50
◆母から (子ども:小学生)	50
◆母から (子ども:小学生, 中学生)	51
◆母から (子ども:小学生)	51
◆母から (子ども:中学生)	51
◆母から (子ども:小学生)	52
◆母から (子ども:未就学児, 小学生)	52
◆母から (子ども:高校生, 大学生)	52
◆母から (子ども:小学生, 中学生)	53
◆母から (子ども:未就学児, 小学生)	54
◆母から (子ども:高校生, 大学生)	54
◆母から (子ども:中学生, 高校生)	55
◆母から (子ども:高校生)	55
◆母から (子ども:高校生)	56
◆母から (子ども:大学生)	56
◆母から (子ども:未就学児, 小学生)	57
◆母から (子ども:高校生)	57
◆母から (子ども:高校生)	58
◆母から (子ども:小学生)	58
◆母から (子ども:未就学児)	58
◆母から (子ども:小学生, 中学生)	59
◆母から (子ども:未就学児)	59
◆母から (子ども:未就学児, 小学生)	60
◆母から (子ども:未就学児)	60
◆母から (子ども:専門学校生)	61
◆母から (子ども:大学生)	61
◆父から (子ども:小学生)	62
◆父から (子ども:小学生)	62
◆父から (子ども:小学生)	62
◆父から (子ども:専門学校生)	63
◆父から (子ども:中学生)	63
◆父から (子ども:小学生, 中学生, 高校生)	64
◆父から (子ども:高校生)	64
◆父から (子ども:未就学児, 小学生)	65
◆父から (子ども:高校生)	65
◆父から (子ども:小学生)	65
◆祖父から (子ども:中学生)	66
◆祖父から (子ども:中学生)	66
◆祖父から (子ども:小学生, 中学生)	67
◆祖母から (子ども:小学生)	67
◆祖母から (子ども:中学生)	67
◆祖母から (子ども:小学生)	68
◆祖母から (子ども:大学生)	68
◆祖母から (子ども:小学生)	68
◆祖母から (子ども:大学生)	69
◆伯母から (子ども:小学生)	70
◆伯母から	70
◆伯父から (子ども:中学生)	70
◆親族から (子ども:小学生, 高校生)	71
◆親族から (子ども:大学生)	71
◆親族から (子ども:小学生)	72
◆親族から (子ども:小学生)	72
◆親族から (子ども:小学生)	72
◆親族から (子ども:専門学校生)	73
◆親族から (子ども:中学生)	73
◆親族から (子ども:小学生)	74

小学3年生から

わたしのためにたくさんおうえんを下さったみなさま、ありがとうございました。
わたしは家ぞく4人をなくしました。1人だけのこったわたしは、今おじいちゃんおばあちゃんとすんでいます。てん校した学校は大きくてびっくりしました。
今はもうすぐ運動会なので練習をしています。人数が多いので出番は少しですが、おうえんもいっしょうけんめいやります。
友だちがたくさんできて、毎日楽しく学校へ行っています。
天国のお父さん、お母さん、妹とおじいさん、わたしはたくさんの人にささえられてがんばっています。
これからもがんばります。安心して下さい。

【小学3年生】

小学6年生から

震災で父をなくし、今は母の実家で生活をしています。転校してきた小学校にもなれ、友達もでき楽しく学校にかよっています。
来年は中学生になるので、勉強に部活にがんばりたいと思います。ありがとうございます。

【小学6年生】

小学2年生と5年生の姉妹から

皆さんからの寄付金ありがとうございます。
私は11人家族とたのしくくらしています。友達もいっぱいできました。勉強が大好きです。
大きくなったらみんなのために何かしたいです。ほんとうにありがとうございました。

【小学2年生】

私達のために全国の人達から寄付金をいただいてありがとうございます。
H23.3.11、あの日のことはいまも忘れることができません。ショックのあまり私はお話をすることができませんでした。しばらくカウンセリングをしてやっと元気になりました。
いまは学校で友達と仲良くそして勉強に頑張っています。
皆様のおかげです。ありがとうございます。ただただ、感謝の一言です。

【小学5年生】

小学3年生と4年生の兄妹から



【小学3年生】



ポケモンマスター
キュレム

【小学4年生】

小学1年生と4年生の姉弟から

ぼくは、パパがしんでかなしいけど、たくさんのお手紙をしてくださってありがとうございます。

ぼくは、えいごをがんばっているけど、まちがえたりするけど、ぼくはでもがんばりたいです。パパがしんでかなしかったです。

【小学1年生】

しんさいでパパをなくしました。いなくなってからすごくたいへんです。

そんなときにみなさんがきふしていただいて、とてもありがとうございます。きふしていただいたみなさま、ありがとうございました。

学校では部活をがんばっています。なっているじゅくをがんばって、あたまがよくなりたいです。

きふしていただいて本当にありがとうございました。

【小学4年生】

中学1年生から

皆様からのご支援、本当にありがとうございます。

震災直後は大変でしたが、この4月から中学へ進学し勉強を頑張っています。また、卓球部に入部し、練習も頑張っています。

将来のことはまだ考えられませんが、亡くなった父の分も一生懸命生きたいと思います。

【中学1年生】

中学3年生から

きふして下さった方々へ

ぼくは、中学3年生で特別しえん学級にかよっています。

しんさいから1年半がたちました。

しょうがく金のおかげで、お母さんと2人で仲良く元気に生活しています。

ぼくは新しい学校で新しい友だちと、いっぱいべんきょうしています。

ありがとうございました。

【中学3年生】

中学1年生と2年生の兄妹から

とても助かりました。支援を下さったみなさまに対してありがとうという言葉しかありません。学校では毎日たのしく、部活ではたまにけんかするけど、たのしいです。家ではたくさんしゃべったり、毎日がとてもたのしいです。

ほんとうに感謝しています。本当にありがとうございました。

【中学1年生】

今は、すっかりもとの生活にもどりました。学校も通常どおり通っています。

今生活できているのは、支援してくださったみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

【中学2年生】

中学1年生と高校1年生の姉弟から

心のこもった御支援ありがとうございます。ぼくは今年、中学校に入学しました。

小学校とは違い、勉強は大変です。部活はテニス部です。一年生のリーダーとして、みんなをよくまとめられるように頑張っています。上達できるように日々練習をし、試合では上位に入賞したいです。

僕も将来大人になったら、人の役に立てる人間になり、ボランティア活動や募金などを協力していきたいです。

【中学1年生】

寄附をお寄せいただき、本当にありがとうございます。私は高校に無事入学できました。そして、中学校のときとは異なった環境に戸惑いながらも、毎日楽しく健康的に学校生活を過ごしています。このように生活が明るいものになっているのは、寄附をお寄せくださった方々のお陰です。

将来、私も小さいことからコツコツと募金やボランティアなど、人の役に立てるようなことのできる立派な社会人になりたいです。最近も、ちょっとしたボランティアがあり参加してきました。今から、小さなボランティア精神を養っていききたいと思っています。

【高校1年生】

高校3年生から

このたびはご支援いただいた方、本当にありがとうございます。

私は母親を亡くしました。大変なこともたくさんありましたが、多くの人に支えられ、なに不自由なくすごすことができました。

一時は夢を叶えるために大学に行くことを断念しようとも思いました。

多くの人々の支援のおかげで大学に行くことができることになりました。寄付して下さったたくさんの方のおかげです。ありがとうございます。感謝しています。恩返しできるように頑張っています。

【高校3年生】

高校3年生から

震災以前は父、母と3人で暮らしており、震災で父を亡くしてからは、これからどうすればいいのか分からず、途方にくれていました。経済的な心配ももちろんありました。当時高校1年生だった私は、卒業後に就職しようかと一度は考えました。ですが寄附金のおかげでそのような心配もいなくなりました。今では安心して大学進学を目指して勉学に励んでいます。

私の将来の夢は高校の教員になることです。学ぶ事の楽しさを子どもたちに教えたいのです。また、私と同じような境遇にある子どもを勇気づけ、安心して勉強できるようにしてあげたいです。こうして教育に貢献することが、私が勉強を続けようと思うきっかけとなった皆様への恩返しだと思っています。これからも温かく見守ってくだされば嬉しいです。

【高校3年生】

高校1年生から

毎日楽しく授業をしていたり、行事をしたり、部活ができるのはみなさんのおかげです。

私は、震災でいろいろなものをなくしました。だからその時はあまり学校に行きたくなかったのですが、みんなに会っていくうちに、だんだんですがもっと学校に行きたいと思うようになったのです。このように私が学校生活を楽しく過ごせているのは、みなさんの支援のおかげです。

私は一日を大切に、みなさんの支援が無駄にならないように勉強や部活を頑張って、どちらともよい結果を残せるようにしているのはある夢があるからです。一年生からでも絶対遅くはないと思うので、今自分が持っている夢に向かって、この三年間を楽しく自分の思い出の中でも一番の思い出になるように、充実した三年間を過ごしたいと思います。

【高校1年生】

高校3年生から

この度は、支援金として、給付金、奨学金を給付していただきありがとうございました。
支援金、奨学金を給付して頂いたおかげで、今、私は震災前と変わることがなく、とても有意義に過ごせています。

あんなにすごい被害があった震災だったというのに、時間が過ぎれば過ぎるほど、あの震災のすごさを忘れていつてる人がいて、普通だったら「忘れてはいけない」などと思うはずが、何故かその震災のことをあまり気にしていない人もいるのかなと思うと、うらやましいような、変な気持ちになります。

あの震災から1年も経ち、街や道路など震災前と同じようにきれいになっていたり、震災直後とくらべていろいろ便利になったりと、状態的にはまだまだじゃないかなと思います。色々あげていったらきりがないのでやめます。

震災があってその中で学べたことがたくさんあったりしたけど、その学べたことについては「震災」というかたちで学びたくはなかったなと思いました。

私は、震災を経験してからも、自分の好きなことを好きな時にできるという環境を変わずつくることができ、どれだけ幸せなんだろうかと思いました。その環境が変わらずにあるということは、周りにいる家族に感謝しなきゃいけないんだなと改めて思いました。

そして、本当に給付金、奨学金を給付していただき、ありがとうございました。

【高校3年生】

高校2年生から

この度は、私のために支援してくださってありがとうございました。

私は、あの震災当時、本当にどうしていいのかわかりませんでした。とても頼りにしていた親を亡くし、流されて自分は助かったのに、この先どうしていいのかわからないという気持ちで押し潰されそうでした。でも今は、皆さんに支援されて少し勇気と自信がもらえました。
この支援されたということを忘れずに、寄附されたお金を大切にに使わせていただきたいと思います。

支援をしてくださって本当にありがとうございました。

【高校2年生】

高校3年生から

拝啓

師走の候、皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は東日本大震災みやぎこども育英基金に、過分なご寄付をたまわりまして誠に有り難う存じました。皆様方の温かいご支援に、あらためて心より厚く御礼申しあげます。私たちが日々笑顔で前進できますよう、おこころざしを使わせていただく所存でございます。

敬具

【高校3年生】

大学1年生から

私は今年の春大学に入学しました。父を亡くし震災直後は進学することなど考えられませんでした。避難所の生活ではなかなか学習することもできず、ほとんど進学もあきらめていました。しかし、みなさんのご支援のおかげで進学しようと思い、それから一生懸命勉強しました。他の受験生に比べて受験勉強のスタートが遅れたためとてもあせりました。しかし、家族や友人、たくさんの人に支えられがんばることができました。生前父は私に大学に行って欲しいとよく言っていたので、その願いもかなえることができたのではないかと思います。

私は今大学での生活を楽しんでいます。それもみなさんのおかげです。私も将来の夢に向けて頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

【大学1年生】

大学1年生から

東日本大震災みやぎこども育英募金に寄付していただき、本当にありがとうございます。頂いたご寄付のおかげで、大学でも安心して学ぶことができています。

震災からもうすぐ2年が経ちそうです。交通網が整備されたり、がれき処理が進んだり、少しずつ復興のきざしが見えてきました。しかし、復興にはまだまだ時間がかかりそうです。いまだに電車が復旧していない区間もありますし、仮設住宅で生活している人もまだまだたくさんいます。漁業も完全には元通りになっていません。

この状況からすると、僕らが社会人になる頃になっても、まだ復興の途中でしょう。その時に僕らに何ができるのか、大学4年間でじっくり考えようと思います。

【大学1年生】

大学1年生から

御寄附をお寄せいただいた皆様。

3. 11を経験し、私たちの生活は変わりました。全てを失い、生きることがとても辛く、苦しい日々でした。日常は戻ってきません。それがどうしても受け入れられませんでした。それでも時間が経っていくことは必然なのだと痛感していきました。

そのような日々の中で、多くの出会いと支援をいただきました。それは心温まり、感謝しきれないことです。一時は進学をあきらめていました。ですが、支援してくださった皆様のお力により進学し、勉強できています。このような形で支援していただいた私だからこそ、誰かのために何か行動をおこせる人間になりたいと考えています。

震災があって苦しい日々はたくさんありました。それでも、笑って過ごせることもたくさんありました。現在は仮設住宅に住んでいますが、来年の春頃には家が建ち、新しい生活が始められるでしょう。ここまで立ち上がれるのも皆様からもらった気持ちのおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。

【大学1年生】

大学生（20歳）から

とても感謝しています。私は震災直前に大学の合格発表があり、これで自由にやりたいこと、やりたい勉強ができるとうかれていました。しかし、震災があり収入がなくなるという現実的問題を突きつけられました。それで私は一時は大学をやめて働くことを考えましたが、みなさんの支援によって大学に通わせていただいています。自分のやりたいこと、できることを考えて、日々一歩一歩といったところですが、自分が大きくなってきているのを感じます。大学を卒業したら地元に貢献したいと考えています。そう考えられるのもみなさんのおかげです。ありがとうございます。

【大学生 20歳】

看護学生（19歳）から

初めまして。私は看護学校に通っている19歳です。震災の影響で、学校に行けるか分からなくなり、不安な日々を過ごしていましたが、皆さんの温かいお気持ちのおかげで、無事通学することができました。本当にありがとうございます。

私は震災前から両親がおらず、祖父母と暮らしていました。ですが、今回の震災で祖父母も津波で亡くなり、残された家族は私と妹の二人だけとなりました。今は一人暮らしをしており、妹は施設でお世話になっています。両親代わりの弁護士さんにとってもお世話になっています。一人暮らしは大変なこともあります。皆様のおかげで不自由なく生活することができています。私は今年資格試験があります。看護師の資格を無事取ることができた時には、沢山の人の役に立てるような、思いやりのある看護師になりたいです。震災はたくさんの方の命を奪い、心を病む人、体調を崩す人が今でも沢山いるのを、実習を通してみてきました。震災は忘れてはいけないことです。テレビやネットでは、ガレキの受け入れ問題が多く取り上げられ、現在も苦しんでいる人々の思いを伝える場は少なくなってきました。私は近い人の死に何度も直面し、家も津波で流され、家族ともバラバラになってしまいました。私は私にできることをしたいと強く思っています。せめて私と関わった方たちだけでも病気だけでなく心のケアまでできるよう、患者さんや皆さんと寄り添いながら、震災の傷跡を少しでもいやせるよう、全力をつくしたいと思っています。看護学校に通えたことを本当にうれしく思っています。家族にしてあげられなかったことを、沢山の人の人にしてさしあげたいです。本当にありがとうございました。皆さんもお体に気を付けてください。

【看護学生 19歳】

看護学生（18歳）から

あの東日本大震災から約1年半がたちました。今私が住んでいる街では色々な方々の支援のおかげで、当時の明るさとはまだいきませんが取り戻しつつあります。まだ親が見つからない状況は続いていますが、今なに不自由なく生活できるのは親戚や支援金を給付していただいている方々のおかげだと感じています。

現在私は高校3年生で、吹奏楽部に所属しています。もうすぐ引退ですが一生懸命取り組んでいきたいと思います。その活動が終われば進路に向けての活動がまっています。私の夢は看護師になることです。きっかけは震災直後の避難所で出会った1人の看護師さんでした。その方は旦那さんが見つからず、子どもを2人連れている状況の中、休む間も惜しんで被災された方のケアや体が不自由な人のサポートを行っていました。あの不安や恐怖に包まれた雰囲気の中、その看護師さんの笑顔はすごく心の支えになったと思います。私もその方のように、緊急事態でも人を助けられる人になりたいと考えるようになりました。

そのためには看護を学べる大学に行きたい、ですが私には大学に行くぐらいのお金がありませんでした。また親戚も被災していたので、お金がぎりぎりの、やっとのことで生活している状況でした。そのことを考えるとその夢をあきらめ、就職しなければならないと思っていましたが、学校の先生から「東日本大震災みやぎこども育英基金支援金・奨学金」から大学に行くサポートをしていただけると聞きました。とても嬉しかったのを覚えています。本当にありがとうございます。感謝してもしつくせません。この恩を将来看護師になって返していきたいです。また街の復興のサポートもやっていけたらと思います。これからも夢に向かってがんばりますので、ご支援よろしくお願ひ致します。

【看護学生 18歳】

専門学校生（18歳）から

今回は、私達のような被災者に、あたたかいメッセージや援助、御寄附をいただき本当にありがとうございます。

私は昨年3月まで宮城県で家族と一緒に暮らしていました。一昨年の震災では、激しい波と火事にのみこまれ、一瞬で消えていったことを今でもはっきりと覚えています。人々の叫び声、どなり声、「タスケテー!!!」という悲鳴を今でも思いだし、時々恐怖にかられることがあります。

私の大好きなママは、たまたま仕事でほかの町におり、地震直後は学校が休みで自宅にいた私と妹を守るために家に帰るように…と、市場にいたパパに連絡をし、ママは仕事場のお客様などの対応などもあり逃げ遅れてしまい、命は助からず今は天国にいます。

あれから1年7ヶ月…。

いろいろな所を見て、感じて…いろいろな人の思いを聞いて、考え、今までの人生の中でとても濃い日々でした。しかし、いろいろな所から届くあたたかい支援やお手紙などが「前に進まなければ」と思わせてくれました。

現在は東京に上京し、美容について学んでいます。

私は幼い頃から美容のお仕事にたずさわること、ビューティーコンサルタントになることを目標としてきましたが、震災後、地元で家族や親戚を残すこと、お金のことがとても不安で一時期は美容を学ぶことをあきらめました。しかし、どうしてもあきらめきれず父にその気持ちを話したところ、「学びたいことがあることは幸せなことだ」ということで進学することに賛成していただくことができました。また、進学のためのお金を援助して下さる心優しい方が沢山いて、無事希望の道へ進むことができました。

学校では「美容」の勉強をしているのはもちろんのこと、応対やおもてなしの心の勉強を徹底して行っています。私の学校生活はとても充実しており、どんな授業も学ぶことが楽しく、

「もっと知りたい」という意欲がわいてきます。自主的な練習も欠かしません。平日は朝の6時30分には学校にいて朝練を行い、授業を終えた後の夕練も19時まで行っています。休日にもバイトのあいまに座学を勉強し、とてもたのしい毎日をおくっています。

こんな幸せな環境を私に与えてくれた親、親戚、援助して下さったみなさまにとても感謝しています。本当に本当にありがとうございます。卒業しても学ぶことを忘れず、私の技術を活かして故郷のみんな、被災地のみんなにハッピーになってもらうことも一つの目標です。

支援して下さったみなさま、本当にありがとうございます。

【専門学校生 18歳】

専門学校生（18歳）から

私は現在、上京して外語専門学校で英語と韓国語を学んでおります。他言語を学んでいる上で自分の知識や考えが広がっていきました。また、語学の他にも一般教養などの授業もあり、非常に充実した学校生活を送れています。もう少しで就職活動という事で私の通っている学校は他と比べて物凄く力を入れていて、7月くらいから準備をしてきました。グループディスカッション、自己PRを練習してきて気づいた点がありました。それは、震災を経験して得た思いが私の力になっているという事です。今まで当たり前のように送ってきた生活、一緒に暮らしてきた家族を一瞬にして失ってしまう。そのような経験は他の人にはあまりないでしょう。その当たり前がどれほど大切で、かけがえのないものだったかを思い知らされ、後悔した時にはすでに遅いなんて、これ以上の悲しみはないと思います。私はこの思いを糧に自分を伝えることを深く考え、どうすれば相手に素直に伝わるかを今まで以上に考えました。そして自分を通して震災のことを伝えたいと思いました。

支援していただいている方々への感謝、震災当時の地元の人達との協力、そして絆、上京をさせてくれた母。私はこの恩を決して忘れません。支援していただいている方々がいなければ、この感謝も学校生活も送れていませんでした。本当にありがとうございます。いつかこのご恩に応えられるような大人になり、社会に貢献していきたいと強く思っています。

【専門学校生 18歳】

未就学児（3歳）と母から



【3才】

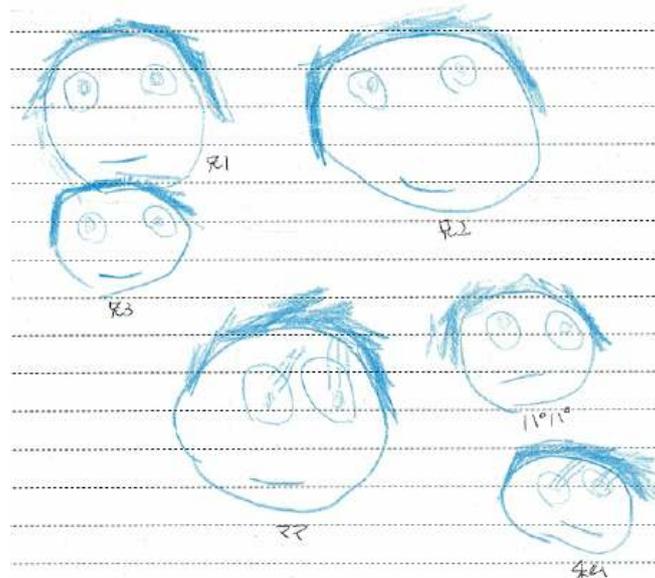
このたびの東日本大震災みやぎこども育英募金に御寄付をいただいた方々に心より感謝しております。

思いもよらない災害、突然の事態のあまり、茫然とするばかりでしたが、震災から1年半が過ぎ、まだまだ余震も続きなかなか落ち着きませんが、また元の生活に戻れるように娘と2人で一歩ずつ前進できるように頑張っていきたいと思います。

誠にありがとうございました。

【母】

未就学児（4歳），小学生（2，4，6年生）と母から



【4歳】

(続く)

いつもありがとうございます。

しんさいの時は、年長さんでした。

パパがいなくなってから1年生になりました。パパにも入学しきに来てほしかったです。

今ぼくは2年生になりました。いっぱいママのお手伝いをして、勉強して、パパの分もがんばります。

これからもよろしくおねがいします。



【小学2年生】

いつもありがとうございます。

震災の時は2年生でした。

今は4年生になりました。

勉強はあまり好きじゃないけど、

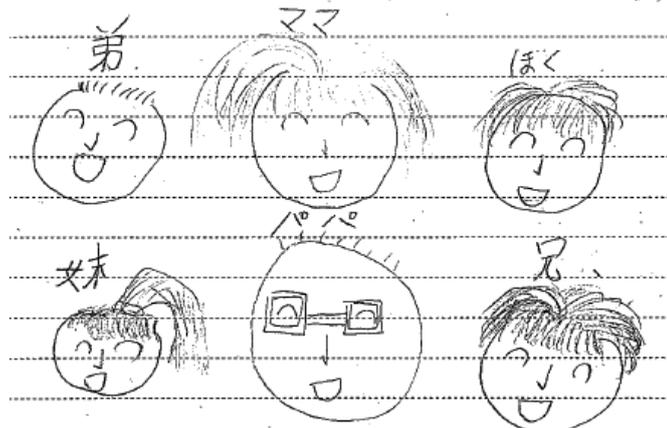
勉強がんばりたいです。

絵や工作は得意なので

一緒にがんばりたいです。

4兄弟でママのお手伝いも

がんばってしていきたいと思います。



【小学4年生】

震災の時は4年生でした。今は6年生で、来年は中学生になります。

将来なにになるかは決めていませんが、勉強とスポーツをがんばりたいと思います。

4人兄弟と母と5人家族になったけど、みんなで協力し合って生きていきたいです。

いつもありがとうございます。

【小学6年生】

御寄附ありがとうございます。心遣いに感謝します。

夫を亡くしてから1年半、怒濤のような日々でした。

子供が4人、私はずっと専業主婦でした。これからどうやって生活をしたらいいのか、どう生きていけばいいのかわからないし、考えられませんでした。

悪いことも考えたこともありました。が、今は子供の未来を楽しみにがんばっています。本当に泣いているひまも、落ち込んでいるひまもありませんでした。

子供の数ほどやることはたくさんあり、私1人では手に余ることもあり、友達の手も借りたりもしました。たくさんこどもとケンカして、泣いて、笑ってと毎日生活しています。これからもたくさんケンカしたり泣いたり、笑ったりして生きていきたいと思います。

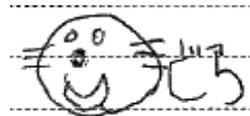
本当に、本当に、子ども達の明日、未来を考えられるようにして頂きありがとうございます。

心より感謝しております。

【 母 】

未就学児（5歳），中学3年生，高校2年生と父から

ありがとう がんばりしています



【5歳】

今回の東日本大震災で、家などいろいろなものを失いましたが、全国の皆様からの支援があったおかげで勉強道具などそろえることができました。

自分も大人になったら、今回お世話になった方々などに恩返しできるように頑張っていきたいです。

【中学3年生】

昨年3月11日、何もかもなくなってしまった町、そして翌日に母が行方不明だということを知らされ、「頑張る」という言葉が嫌いになりました。しかし、このように顔も知らない私達のために、全国からたくさんの方々を支えてくださっていることをこの「東日本大震災みやぎこども育英基金」という形で感じ、このままではいけない、頑張る前に進もう！と思うようになりました。

私たちが毎日勉強するために必要なものも、生活するものも、この奨学金のおかげでとても助けられています。また、来年に迫った受験も困ることなく志望大学選択を出来ています。

私に今出来ることは、志望大学に進学するために一生懸命勉強することだと思っているので、日々支えてくださっている方々に感謝し、頑張ります。そして、将来は医療に携わる職業に就き、少しずつでも恩返しをしたいと思います。

【高校2年生】

昨年の3月11日は長女の中学校の卒業式でした。次女は在校生として私たちは父兄として出席、感慨深い時間を過ごした後にあのような忌まわしい震災が起きるとは思いもしませんでした。

海沿いに住んでいるため、津波警報が出たら家に帰ろうとはしないで、必ず山などの近くて高いところに逃げるようにと子供達には常日頃から話をしていました。

子供達はあのような時でも山に逃げ命は助かりましたが、妻は病院3階屋上に患者を避難させ、屋上が浸水し、皆が動揺する中でも患者を励まし、医師が職員に流れてきた船や屋根に逃げるよう指示してからも、「患者さんはどうするんですか」と叫んでいたそうです。恐怖と寒さの中でも最後まで頑張った妻のためにも、子供達を一人前に育てあげようと思っています。

（続く）

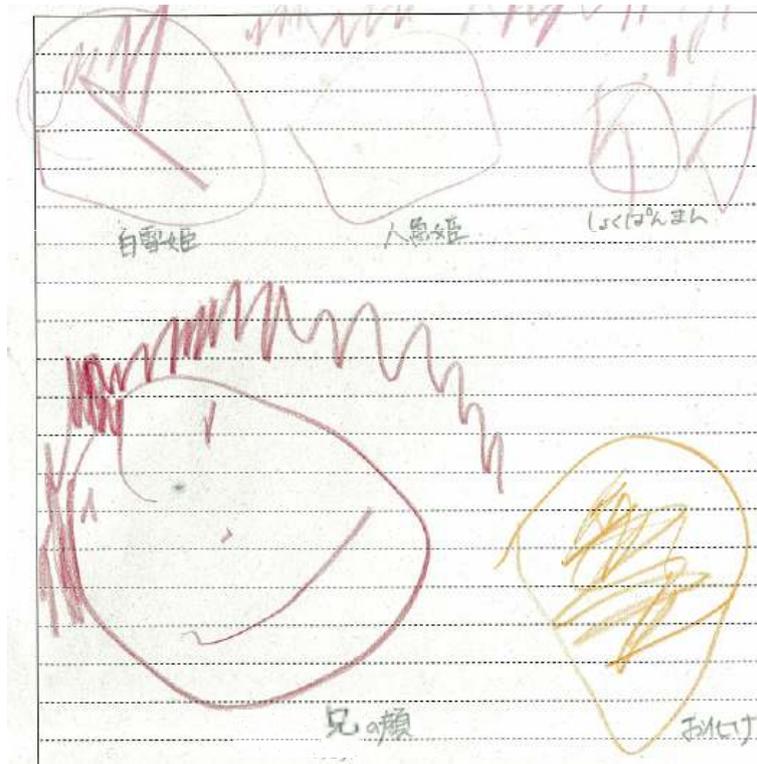
次女は来春高校受験、長男は小学校入学です。長男は家も失い、保育所も変わり、先生も友だちも全部知らない人になり、そして大好きな母親を失い、12月まで保育所に行きませんでした。保育所の先生、保健師さん、子供総合病院の皆様方のお陰で登所するようになり、先日あった運動会も、あといくつ寝ると運動会と楽しみにしていました。かけっこでは1番になり金メダルを取ったと本当にうれしそうにしていました。

今後長女は大学に進み、助産師を目指すそうです。次女は高校に入学しても部活を、長男は僕も勉強頑張るといっています。

一時はどん底だった私達も皆様方からの支援により立ち直り、目標に向かいはじめています。今後どうぞよろしくお願ひします。

【 父 】

未就学児（3歳）と母から



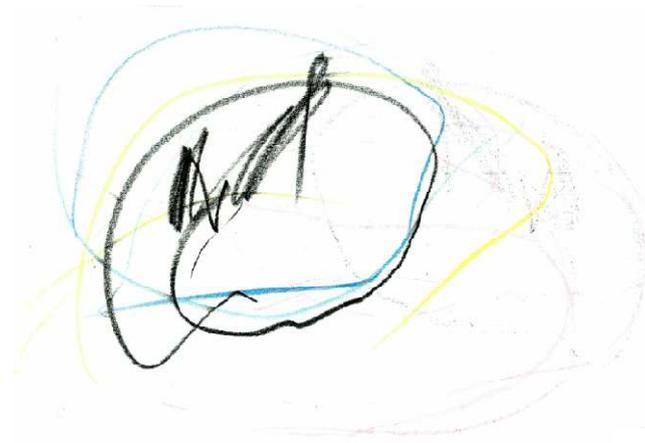
【3歳】

皆様からのご支援、大変ありがたく、感謝しております。

子供達はまだ幼く、皆様からの寄附を説明することはできませんが、小学校へ上がる頃には、きちんと私達は皆様に支えられていることを話してあげようと思っております。

【 母 】

未就学児（2歳），小学3年生と母から



【2歳】

みやぎこども育えいぼ金にごきふいただきありがとうございます。

今小学校では国語の漢字とローマ字の勉強をがんばっています。

4月からはそろばんに通いはじめて、今は5きゅうです。1きゅうをめざしてがんばっていきます。

これからも勉強や家のお手伝いなどをがんばっていきます。

【小学3年生】

この度は、みやぎこども育英募金に御寄付をいただき、ありがとうございます。

長女は小学3年生で、学校では勉強やスポーツをがんばっています。

2歳の長男は、毎日元気いっぱい!!楽しく保育園に通っています。

2人の子供達に支援いただき、感謝しております。ありがとうございました。

【母】

小学3年生と母から

育英募金に御協力いただいた方々へ

わたしは、東日本大しん災でお父さんをなくしました。
とてもさびしいけどがんばっていかないとだめだからがんばります。
今は、てん校した学校にもなれて、友達もできました。
大人になったら、人の役にたつ人になりたいです。

【小学3年生】

東日本大震災みやぎこども育英基金に御協力いただいた方々へ

震災では、夫を津波で亡くしました。

1年半がたちますが、まだ信じられないのが現実です。子供たちの方がしっかりしていて、いつもはげまされています。下の子は家も学校も変わり心配していましたが、友達もできて毎日楽しく過ごしています。これも皆様からの温かい善意のおかげです。

これからどうなるかまだわかりませんが、子供たちと一緒に頑張っていきます。

【 母 】

小学6年生と伯母から

ぼくは今、東日本大震災の前から通っている小学校の6年生です。

地震と津波のせいで、もとの校舎は使えなくなってしまい、別の場所に移転してしまいましたが、友達や先生方もほとんど変わらず、みんな一緒に勉強しています。

9月14日に陸上記録会があります。今はそれにむけて毎日放課後に練習しています。

ぼくは1000mとリレーの選手なので、少しでも良いタイムが出せるよう頑張りたいと思います。

【小学6年生】

9月14日はとても暑い日で体調も心配でしたが、とても頑張っていました。

レースの結果は上出来とはいきませんでした。自身の目標タイムをクリアできて満足気でした。なにより、友人達と一つのことを成し遂げる達成感を得られたことが最大の収穫だったと思います。

【伯母】

小学5年生と母から

寄附をしていただいた方々へ

私たちのためにたくさんの寄附をして頂きありがとうございます。

私は、みなさんがんばっている所をしょうかいします。

私は、皆さんから頂いたお金で、スイミングスクールやピアノ教室、そろばんなど、いろんな習いごとができるようになりました。スイミングスクールでは、クロール、セ泳ぎ、平泳ぎ、バタフライの四種目全部泳げるようになりました。スイミングの月4週目に「遊び時間」があります。遊び時間のときにコーチと遊んだり、友達と遊んだりしています。

ピアノ教室では、「グレードテスト」というものがあります。私は、グレードテストを受けていて、今の私の級は「13級」です。ピアノ教室に来て泣いてしまう時があるけどがんばります。

私がこのように色々な習いごとができるのはみなさんのおかげです。本当にありがとうございます。

【小学5年生】

沢山の御寄付をありがとうございます。

頂いた支援金のおかげで、通っていたピアノ教室やスイミングスクールを続けさせることができました。

無気力というか、やる気をなくした時もありましたが、今は前向きな気持ちになっています。

私も就職し、生活のリズムも変わり、これからの計画も立てられるかなと思います。

本人の希望する道に進ませてあげたいので、頑張っていきます。

【 母 】

小学5年生と祖父から

じてんしゃやスポーツ用品などのしえんをいただきありがとうございます。

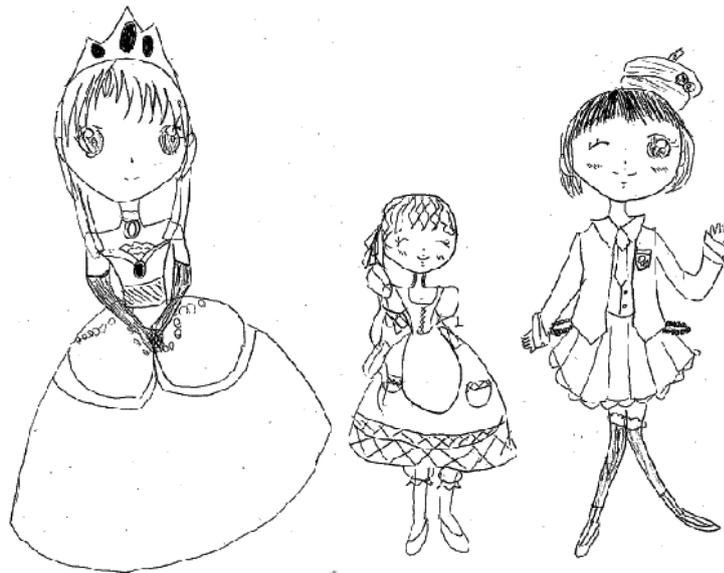
【小学5年生】

震災後、生活が変わり、ようやく最近なれてきました、孫、祖父、祖母の生活です。

孫は小学5年生になり、学業、野球クラブ、遊び、友達も多く楽しく暮らしています。

皆様のご支援のおかげで生活しています。ありがとうございます。収入が少なくて助かっています。

【 祖父 】



女の子の絵を書くのが大好きです

【小学4年生】

ご支援ありがとうございます。

震災の時1歳2ヶ月だった孫も2歳8ヶ月になりました。よちよち歩きだった孫も元気に走り回るようになりました。上の小3だったお姉ちゃんも小4になりました。9月15日には、こども音楽コンクールの合唱に参加しました。

昨年の3月11日、津波で流され、いまだ見つからない孫達の母親のことを思うとまだまだ涙がでます。家は何とか流されずにすみましたので、震災の翌日から私の弟家族と親戚のおじ家族の三家族12名で暮らしました。

2ヶ月半電気も水道もありませんでしたが、田舎なので井戸やかまどがあったので、何とかにぎやかにみんなに助けられ、孫達も元気に成長することができました。

おじ達も今年の1月に新築し引っ越していきましたが、近くなので毎日のように行ったり来たりで、ジイジ、バアバと本当の家族のように思っているようです。

今回の震災では、みなさんのご支援がどんなにありがたかったことか、おかげさまで、前向きに進むことができます。皆様に心より感謝申しあげます。

【祖母】

小学3年生と母から

こんにちは。

ぼくは、東日本大しんさいにあつてとてもこわかったです。

でもみなさんがぼくたちのためにたくさんしえんしてくださったので、少しずつ元気になってきました。

ぼくたちは四人兄弟です。兄弟力をあわせてこれからもがんばっていきたいです。

みなさん、本当にありがとうございました。

【小学3年生】

皆様のあたたかく強いお心遣いに深く感謝申し上げます。

今回の震災においては、全ての方々が心に傷を受け、様々な痛みをかかえながら、この一年半を過ごしてきたのではないかと思います。

我が家庭においても主人を津波で失い、子供4人をかかえ、どうしていいのかぼう然とする中にありました。そんな中にたくさんの方々から支援をいただき、何よりも子供たちの将来に希望を与えていただけたことに、感謝の思いでいっぱいです。

子供自身、父親を失ったこと、私自身も仕事を始め、以前よりも子供に目の届かないことに不安もありますが、一歩ずつ前に進んでいかなければという思いで歩んでいます。

津波のニュースを見たり、様々な情報が流れたり、また一日一日と過ぎていく中にも決して忘れることのできない情景が浮かんできます。それでも確実に時間は進み、子供たちは成長していきます。でも、それはただ過ぎていく時間ではなく、多くの人に支えられ、生かされてある命であり時間であること、感謝と愛の心をもって生きて、その受けた分の愛を多くの人、社会に残していけたらと思います。

本当にありがとうございました。

【 母 】

小学3年生、中学3年生と父から

今、わたしは、小学3年生です。学校のなかで一番好きなのは、休み時間です。ドッジボールをしたり、サッカーをしたりしています。特にやるのはゴムダンです。じゅぎょうの中で一番好きなのは体育です。特に体育の中で好きなのは、リレーです。一番にがてなかもくは音楽です。特に、リコーダーがにがてです。でも、歌だけは大好きです。一番給食の中で好きなのは、あげパンです。きなこがついていて、とてもおいしいです。給食後のそうじは、とてもいやです。今、わたしは、くつばこそうじの係です。すながいっぱいあって、とてもたいへんです。特に、男子のくつばこをきれいにするのがたいへんです。でも、その後がわたしの大好きな30分休みです。たまに、ゴムダンがあきてきたりすると、ジェンガやウノ、トランプをやったりします。そんなわたしのしょう来のゆめは、わたしたちをこわれそうな小学校からきゅうしゅつしてくれた、じえいたいさんのように、こまっている人たちをわたしも助けたいです。

【小学3年生】

私は今、県外の中学校で毎日楽しく学校生活を送っています。友達とお話しをしたり、遊んだり毎日がとても楽しいです。私は受験生ということもあり、勉強を頑張っています。家では、家族3人仲良く暮らしています。

私は将来、人のために働く仕事をしたいと思っています。今回の震災で私は沢山の人に助けられ、支えられてきました。だから今度は私が皆を助けたり、支えたりすることをしたいです。そのために、今の中学校をしっかりと卒業して、高校に行き、そして大学に行って、夢を実現したいと思います。

今、私がこのように頑張れるのは、応援してくださっている方々がたくさんいるからです。そのことを忘れずにこれからも頑張っていきたいです。

【中学3年生】

当方事情が有り、震災時の事を記す事を遠慮させていただきますが、私の心を丈夫にさせてくれた娘二人の言葉をここに書き述べさせていただきます。

「私 受験生だけど この頃ずっと人のために何かしたくてウズウズしてる」 15歳 長女

「私 カワイソウと言われるのも思われるのもイヤだから がんばる」 9歳 次女

皆様のお力添えにより、娘達は素直に日々頑張っております。有難うございます。

【父】

小学4年生、中学1年生と母から

ぼくは小学4年生です。東日本大しん災で、お父さんは見つかっていないけど、おとうさんと
の思い出はたくさんあります。一生わすれないようにしたいと思います。

ぼくは、今野球をがんばっています。しょうらいはプロ野球選手になりたいです。

【小学4年生】

私は中学1年生です。

東日本大震災を経験して、大切な家族を失いました。それはお父さんです。お父さんは消防士
として「人を守る」という任務を果たしたと思います。お父さんとはたくさん思い出がありま
す。それを一生忘れずに生きていきたいと思います。

私が今がんばっていることは、勉強と学校生活と部活です。勉強は小学校ではなかった50分
授業や期末テストなどがあり大変でした。学校生活では、運動会や文化祭などがありました。
その中でも私が一番大切だと思っているのは「あいさつ」です。私が通っている中学校では、
とてもあいさつがさかんです。みんながあいさつできる「あいさつ坂」があります。「あいさ
つ坂」は、先輩方や先生方にもあいさつができて、私は毎日楽しみに通っています。これから
も「あいさつ」をしっかりしていきたいです。

部活では、今ソフトボール部に入部しています。ソフトボール部は3年生が引退し、今は1年
生9人と2年生3人ががんばっています。2年生が3人しかいないため、1年生が試合に出る
チャンスが多いです。私は1年生ですが、レギュラーになりました。ショートを守っています。
バッターは両打ちです。新人戦は少ない人数で挑みますが、優勝目指してがんばりたいと思
います。

【中学1年生】

ご支援いただきありがとうございます。

東日本大震災より1年半がたちましたが、主人は今も行方不明です。先日、私の誕生日でした。
主人と同じ年になりました。来年から年上になってしまう…と思うと、とても寂しく思います。
今年から娘は中学1年、息子は小学4年になりました。娘はソフトボール部に入部し、毎日練
習でへトへトになりますが、勉強もがんばっています。欲をいえば、そのがんばりが成績にで
てきてくれるといいのですが、そううまくはいかないものです。息子はスポーツ少年団で野球
をやっています。今年から毎試合出してもらえて、ますますがんばっています。家では甘えん
坊、外ではしらん顔。男の子はこのギャップが楽しいです。今は平日仕事と休日子供達の応援
で多忙な毎日ですが、子供たちがすごくがんばっていることがとてもうれしいので、私も負け
ずにがんばりたいと思います。いただいたお金は、子供たちのスパイク、グローブ、学習用品
に使わせていただいています。とても感謝しています。ありがとうございます。

【 母 】

小学6年生、中学2年生と親族から

僕は、住んでいた町とは別の小学校に通っています。転校して来た時は、友達ができるか心配でした。でも今は、友達もたくさんできて楽しいです。そして、バスケットをやっています。昨年の8月から始めたばかりなので、そんなに上手ではないし、けれど、試合に出られると嬉しいです。中学校へ行っても、バスケットを続けたいです。授業で好きなのは、体育で、苦手なのは、国語です。勉強はあんまり好きではないけど、中学に入学したら、もっと難しくなると思うので、家に帰ってから復習をするようにしています。クラブは、パソコンクラブで委員会に入っています。今はこっちに来て良かったと思いますが、僕は大人になったら、古里のものの町に住みたいと思います。

【小学6年生】

僕は震災の時、お婆さんと弟の3人で住んでいました。津波でお婆さんが行方不明になってしまって、まだ見つかっていません。早く見つかるのであればいいなと思います。今は、僕と弟と従姉妹と伯父さん、伯母さんの5人で住んでいます。こちらにも慣れました。弟と一緒に良かったです。従姉妹とは時々けんかもするけど楽しいです。学校までは少し遠いけれど、頑張ってる通っています。友達もできました。部活は、総合文化部に入部していて、活動内容は刺し子や、絵を書いたり、調理実習もします。10月には、文化祭があるのでそれに向けて活動中です。来年は、弟も中学生になるので、一緒に学校に行けるのが楽しみです。こうしてみんなと生活できるのも皆様からのご支援のおかげだと思います。ありがとうございます。

【中学2年生】

震災から1年半が過ぎ、少しは落ち着いた気がします。思い起こせば3月11日の震災以降は無我夢中でした。なぜこんなことになってしまったのか？考えれば考えるほど、割り切れない悔しさと悲しさでいっぱいでした。しかし、皆様の温かいお言葉や様々なご支援を頂戴し、感謝の気持ちでいっぱいです。心よりお礼申し上げます。

現在は、中2、小6の甥を里親として養育し、小4の娘、夫と5人で生活しています。

私達自身も被災し、家も流されてしまい、現在は民間の住宅に住んでいます。子供達も一年一年成長するにあたり、学習面でも集中できる環境を作ってやりたいと思っていますが、まだまだ先の見えない状況で、今後のことは何も決まっていません。子供達の将来を考えながら進んでいくつもりです。

2人の甥も様々な心配がありましたが、学校の協力もあって、今では友達も沢山できて学校にも元気に行っています。今後とも、子供達の事を見守って頂ければと思います。

【親族】

小学4年生、中学2年生、高校3年生と父から

3月11日、海が近くて。でも、学校（に津波がきたの）は1階だけでよかったです。学校が始まっているのでよかったです。それに、とまるどころもなかったのです。でも、その後にお父さんとおねえちゃんにあったけど、お母さんにあえなかった。いまは、やきゅうをやっているで、すごくしあわせにくらしています。

【小学4年生】

震災後に転校し今なれたばかりで、部活もがんばっていますが、一番頑張っているのは、高校に向けての準備として勉強を力強く頑張っています。

【中学2年生】

私はこの東日本大震災で母を亡くしました。今まで共働きだった家庭が父だけの収入となりました。そして今年私は受験生で短大を希望しています。これからお金が必要となるので、このような人たちのおかげで自分の夢に向かって実現することができます。御協力していただいた方々への恩返しは短大に合格し、夢を実現することだと思っています。

【高校3年生】

長女（高校）、長男（中学）、次男（小学）の子ども3人と母、5人で暮らしており、特に長男は小学卒業、中学進学と、人生の中でも変わり目の時で、その大事な時に母親が亡くなり、又転校も余儀なくされ、口には出しませんが子ども達の中で一番辛かったと思います。今は学校にも慣れ始めてきたところです。ですが、集団移転対象区域の我が家は、もちろん家もなくなっているので、やはり地元での再生を考え動き始めたところで、子ども達の学校を考えるとなかなか良い物件が見つからず、移動先の申込はしたものの造成終了が2年先ということと消費税増税も視野に入れるとなかなか身の振り方に困惑しているのが本音です。子ども達を不安にさせないよう、これからも家族全員でがんばっていくしかないですが、皆様のご支援をいただきながら再生していますので、今後ともよろしくお願い致します。

【父】

小学4年生、中学2年生、高校2年生と父から

たくさんの支援ありがとうございます。

いっぱい勉強して、いっぱい友達と遊んでがんばります。

【小学4年生】

今回の大地震で多くのものを失ってしまいましたが、国内外のみなさんからいただいた支援のおかげで頑張ることができます。僕は将来、人の役に立てる大人になれるように、一生懸命頑張ります。ありがとうございました。

【中学2年生】

私たちのために寄附していただき、本当にありがとうございます。みなさんからのたくさんの支援のおかげで、私ももっと頑張らないと思いません。

もう少しで進路決定しなければいけない時期なので、自分が就きたい仕事に就けるように、残された学校生活を無駄にしないよう、頑張りたいと思います。

【高校2年生】

私はこの大震災で家が流され全壊し、妻が津波に巻き込まれ亡くなってしまいました。

震災直後は、生きる気力さえなくなりましたが、沢山の方々から支えられ、助けられたお陰で、子供達のために無我夢中で頑張ってきました。そして、国内外の皆さんから沢山の支援をいただき本当に感謝しています。

子供達が少しずつ普通の生活を取り戻し、楽しく学校へ通えるのも皆さんのおかげだと思っています。

皆さんから支援していただいたことを一生忘れることなく、生きていこうと思います。

ほんとうにありがとうございました。

【父】

中学生（1，2年生）と母から

僕は今中1なのですが、家も引っ越して、必死(?)に勉強して、やりたいことをやって、個人的にかなり幸せな生活をしています。まあ、やりたいことやりすぎて、おこられるんですけどね。(苦笑)

最近、期末考査が終わりました。結果はまだ返されていません。たぶん、ひどい結果が返ってくるでしょう。部活で新人戦もあつたりと、何かといそがしいです。

あまり書くことがないです。それだけふつうの幸せな暮らしをしている…。ということです。たぶん。

話はがらっと変わりますが、寄付してくださった方々、ありがとうございました。

【中学1年生】

私は今年4月に引っ越しました。

最初のころは、友達もいなくて、右も左もわからず大変だったし、つらいことも多かったです。でも、引っ越して約半年が経ち、少しずつですが慣れてきて、友達もできてきて楽しく生活できています。それは、全国の方々がお金を寄付してくださったり、物資を送ってくださったりしていただいたからできているんだ、と思います。

これからもたくさんの人々が応援してくださっているということを忘れずに生活していきたいと思います!!

たくさんの方々の支援ありがとうございました!!

これからも私達のことや、被災地のことを見守ってください。

【中学2年生】

平成23年3月11日の災害は、私たち家族にとって、とても大切な夫を亡くすという、とても大きな代償が残るものでした。

子供たちは、当時、小学5年と6年の男の子と女の子で、これから精神的にも父親の存在が大きくなっていく時期でした。昨年23年は、私は被災した町で子供たちと仮設住宅に暮らし、仕事をして、子供たちの学校の送迎を同じ境遇のお母さんたちと力を合わせて日々の生活を必死に送っていました。

ですから、今、24年の4月の年度の変わる時期に、子供たちと実母と私と、まったく新しい生活を始めようと思い、23年はその準備にも忙しくして、何もというより、悲しみも淋しさも感じる余裕なく暮らしていました。こちらで暮らし始め6ヶ月、子供たちが中学1年生と2年生で、この環境に慣れてきたようなこの時期になり、私自身は、この1年半の中で、もっとも、つらく、淋しさの中にいます。ここまでのレールをひき、家族をひっぱってきた自分が、何のやる気もなく、その様子を見せることもできずにいます。(続く)

ただ、私にとって子供たちが何かをみつけて前へ進んでくれることだけが、今の私の力になるかなあと思われます。こども育英基金など支援金は、そのために子供たちがお金がないからできないということがないように、とても心の支えになっています。これからもよろしくお願ひします。ありがとうございます。

【 母 】

中学2年生，高校2年生，大学1年生と母から

私たち被災者のためにありがとうございます。私は今、中学生でバレー部です。バレーでは靴やサポーターなどが必要です。前は学校から古い物を借りたりしていました。しかし今では、新しい靴やサポーターを買っています。それは今回の支援があったからだと思ひます。本当にありがとうございます。

私は今回の震災で色々なことを学びました。命の大切さや、人と人との助け合ひです。悲しいこともあったし、学んだこともありました。私は震災の時、小学校6年生でした。小学校で一緒だった人達とも離ればなれです。前の学校の人達が遊んでいたりしていると、「前に戻りたい」と思ひて泣いてしまいます。でも1年半たった今は前に向かって頑張っています。これからもよろしくお願ひします。

【中学2年生】

今回は、私たち被災者のために御寄付をしてくれてありがとうございました。

私はこの震災で父と祖母を亡くし、そして親戚、友達も亡くしました。

古里にあった家も津波で浸水し、取り壊して今は母親の実家の方にお世話になっています。震災が起きてから初めは食料もなく、小さいビスケットなどを6人で分けたりしながら食べていました。でもその後は全国各地から被災地への救援物資などが届き、それがすごくありがたいことだと心から感じました。救援物資だけでなく、皆さんからお寄せいただいた義援金、これもとても助かりました。

今では家族4人で頑張って暮らしています。私もこれからも母を支えていけるように頑張っていきます。

本当に今回は私たち被災者に御寄付していただきありがとうございました。

【高校2年生】

(続く)

義援金を寄付していただきありがとうございました。私は義援金を大学に入学するために使わせていただきました。

震災直後は家のこともあり、大学に入学する余裕もなく、就職する気でいました。ですが、皆様からの寄附のおかげで大学に入学することができました。また、みなし仮設に住んでいたの、現在は一人暮らしすることにも使わせてもらいました。今の私がこんなふうに住んでいるのは、こういった寄附をしていただいたからです。

【大学1年生】

今回色々な方々からたくさんの寄附をいただき本当にありがとうございました。私たちは、家を全壊、大切な家族を2人亡くしてしまいました。私と子供たち3人で主人を探している時、高3で大学を志していた娘に「私、就職するから!!」と言われた時は、震災に負けたようで、私たちの家、家族、子供たちの夢、希望までも奪われたようで、とても辛く、子供にあやまることしかできませんでした。そんな中、高校の先生から支援の話を聞き、今では娘も大学に通い、ボランティアもしながら大学生活を送っています。下の娘2人も震災後の4月に高校と中学に入学、中学の子は新しい土地で知らない顔ぶれの同級生になれるまで1年以上かかりました。高校の娘は、亡くなった主人に合格を伝えたのもあったので、通うには大変でも高校を変えないで、今では部活や学校外での活動にも積極的に参加しています。子供たちを見ていると、この1年半でものすごく成長したし、まわりのみなさんのおかげで笑顔が戻ってきたように思えます。これもみなさんの寄附・支援のおかげです。本当にありがとうございます。

今回のことで、子供も私も人の良い面、そうでない面をたくさん見てきたことで、人と人とのつながり、絆を深く感じるようになりました。その絆、つながりをいつまでも忘れることなく、強くこれから生きていきたいと思えます。

ありがとうございました。

【 母 】

中学3年生，高校3年生と父から

家族全員、元気に過ごしております。頂戴しました奨学金は、今後の大学入学等の資金にあてようと考えており、今は貯金させていただいております。

【中学3年生】

家族全員、元気に日々過ごしております。頂戴しました奨学金は、今後の大学入学等の資金にあてようと考えており、今は貯金させていただいております。

【高校3年生】

東日本大震災で妻、祖母を亡くし、辛い日々が続きましたが、仕事の忙しさや子育てに追われ辛かった時の事を日に日に忘れてきております。子供達にも、あれ以上の辛い経験は無いと常々言い聞かせ、日々の生活を過ごしております。

今年は、娘が大学受験、息子が高校受験と勉強の毎日です。皆さんから頂いた支援金は、子供達の大学学費として使わせて頂くために、現在貯金しております。これからもよろしくお願い致します。

【父】

中学3年生，高校1年生と母から

今、仮設住宅に住んでいます。来年受験があるので、今は勉強にはげんでいます。いつもご支援ありがとうございます。

【中学3年生】

私は今、第1志望校に合格して高校生活を送っています。入学して約6ヶ月たって学校にもなれ、新しい友達もでき、楽しく高校生活を送っています。部活動はソフトボール部に入部しました。部員は1年生6人しかいなく、試合は合同チームで大会に出場しました。練習はほぼ毎日やっています。

みなさんからいただいた支援金は大切に使っています。ありがとうございました。

【高校1年生】

震災後は、お爺さん、高校一年娘、中学三年息子と四人で仮設住宅に住んでいます。

震災前は夫とお爺さん二人で、養殖漁業で生活をしていました。

支援金・奨学金は子供達のためにお金の心配をかけないように大切に使わせて頂いています。本当にありがとうございます。

【母】

中学2年生と母から

私に、私達に寄附をしてくださった方々、本当にありがとうございます。

震災から約一年半、私は毎日楽しく過ごしています。

当初は教室を間借りして、学年ごとに分かれて生活していましたが、今は校庭に仮設校舎を建てて生活しています。教室が少なかったり、体育館が使えない時があったりしますが、以前よりは生活しやすくなりました。

私は、今年の夏休みに、家庭部から剣道部に転部しました。きっかけは、もともと興味があったのと、友達に誘われたからです。でも最初は、大丈夫かな、と不安になりました。なぜなら、道着と袴を買うために、1万円くらいお金がかかるからです。けれどお母さんにそれを言ったら、「育英基金など支援してもらってるんだから、気にしなくていいよ」と言ってくれました。こうして私は剣道部に入りました。防具をつけての練習や試合は汗を沢山かいて大変だけど、とても楽しいです。家庭部のときよりも楽しいです。なので今では、剣道部に最初から入ればよかったと思っています。

家でも、お母さんと一緒に好きなグループやアニメなどで盛り上がり、毎日が楽しいです。こうして毎日楽しく過ごせているのも、寄附をしてくれた方のおかげです。本当にありがとうございます。

これからのことはまだ何も決まっていませんが、今は楽しく、明るく過ごせればいいかなと思っています。

今後も、私とお母さんと犬とで頑張っていきたいなと思います。

【中学2年生】

多くの皆様からの寄附、支援等本当にありがとうございます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

あれから1年半、世の中、復興1歩1歩進んでいるようですが、私の中ではあの時で止まったままです。その中で娘の成長が毎日楽しみで…。

現在中学2年生なのですが、難しい年頃のはずが、とてもいい子に育ってくれて今のところ安心しています。小学6年の時震災にあい、卒業式もまともにならないまま、間借りする校舎に入学して、しばらく部活もなく、悩んだ末、家庭部に入りました。でもあまり楽しそうじゃありませんでした。今年の夏休み前に剣道部に入りたいと言ってきたので、いいよというと、少し申し訳なさそうに娘が防具と道着を買わなきゃいけないと言ってきたんです。娘なりに色々考えているんだなあと思い、あなたのために育英基金支援金など支援してもらっているんだから気にしなくていいよと言ってあげられました。今年の夏休みから剣道部に入ってすごい楽しいみたいで、お母さん、学校と部活すごい楽しいよと言ってくれます。この支援のおかげで塾にも行かせることができます。この先まだまだ何も決まらず不安だらけですが、娘が笑っているなら、それが一番です。

【母】

中学3年生と親族から

全国の皆様へ

あの震災から、みなさんから寄附していただきありがとうございます。
そのおかげで今こうしていられると思っています。本当にありがとうございます。
これからも、震災に負けずにがんばっていきたいと思います。

【中学3年生】

全国の皆様へ

あの忌まわしい災害から一年半過ぎました。いまだに残る傷跡を見ると悔しくて仕方ありません。

あの当時は何をしたら良いのか、今後どうしたら良いのか考えることすらできませんでした。
しかし、周囲の方に、皆々様の励ましの言葉、支援をいただき、おかげさまで元気に生活を送ることができております。

現在実家の方におりますが、来春までには戻りたいと思います。しかし、両親のいない家に帰る子供達の心境を考えますと不安です。現実を認め、社会のために役立ち、いくらでも励ましていただいた皆様にお返しすることができる大人に成長してもらいたいです。

子供達は現在の生活を精一杯、一生懸命頑張っております。これからも元気に楽しく過ごして欲しいです。

将来のために使わせていただきます。有難うございました。

【 親族 】

中学生（1，3年生），高校2年生と母から

日本からそして日本以外の様々な国の方から寄付してもらったお金で僕達は震災前と変わらない生活を送れています。寄付金のおかげで学校にも行けて、部活もできています。

僕は剣道部に入っています。僕の将来の夢は警察官です。警察官になるためには力だけでなく心も強くなければなりません。剣道は、ものすごくお金がかかります。でもたくさんの人からいただいた支援金のおかげで剣道ができています。もちろん、勉強も頑張っています。中学になってから、勉強も難しくなってきました。でも、テストでいい点をとれるよう頑張っています。これからも、支援金、寄付金に感謝し、勉強、剣道を頑張っていきたいです。

【中学1年生】

たくさんの方からの寄付があり、私達は震災前と変わりなく生活を送ることができています。家族皆で話したり、友達と話したり、毎日楽しく過ごしています。こうして生活できているということにとっても感謝しています。

私は、今中学3年生なので受験生です。受験勉強はとても大変だけど、日々頑張っています。たくさん勉強して自分が行きたい志望校へ行けるように、これからもっと頑張っていこうと思います。そして、自分の将来の夢への可能性をひろげていきたいと思います。変わりなく生活できていることに感謝し、いろんな事を頑張っていこうと思います。

【中学3年生】

この度は、私たちのために東日本大震災みやぎこども育英基金に御寄付をお寄せいただき、ありがとうございます。震災から約一年半経ちました。私たちは皆さん方のおかげで今までと変わりなく生活を送れています。学校へも毎日休むことなく通えています。学校の勉強も難しくなってきた、正直やりたくないと思う日も多々ありますが、御支援いただいでいて、たくさんの人に支えられている事を考えるとがんばらなくちゃと思います。そろそろ大学受験の勉強をやりはじめなければならないと思いはじめてる今も、皆さんの心温かい思いは心強いです。今後とも、御支援よろしくお願ひします。

【高校2年生】

あの震災から、一年半過ぎましたが、御寄付をいただいた方々のおかげで我が子達は、以前とあまり変わらない生活を送ることができております。心より感謝申し上げます。

3人の子供達は、それぞれ自分の進路を決め、それを目標とし、日々勉学に励んでおります。最近何より嬉しく思うことは、3人の子供達に笑顔が戻り、笑い声がたえない日々を過ごせていることです。

(続く)

今後も御支援いただいていることに感謝し、いろいろな事に挑戦し、将来の夢へ向けて頑張ってもらいたいと思っています。本当にたくさんの方からの御支援に感謝しております。ありがとうございます。

【 母 】

中学2年生，高校1年生と父から

震災時、僕は小学校の卒業式前でした。中学校の入学に備えていたカバンや制服も流され、なくなりました。いただいたお金で、参考書や文具を買いました。中学校に入ってから、テニス部に入って頑張っています。部活は、練習試合で遠出することもあり、そういう時にお金を使っています。これからもよろしくおねがいします。

【中学2年生】

私は、通学バスの支援や奨学金の支援を受けています。通学バスがなければ、学校に通う手段がなく、学校へ行けなかったと思います。たくさんの人によって、私は学校に行き勉強ができていたことを改めて感じました。色々な人の支援のおかげで、震災以前と同じように生活をしています。本当にありがとうございました。多くの人の支援を受けているので、これからはしっかり勉強し、復興の役に立てるような人間になりたいです。

たくさんの方の支援、本当にありがとうございます。

【高校1年生】

ご厚意ありがとうございます。震災時、私は失業していて、失業給付も終わりに近づいていました。8月によく仮設住宅に入居できましたが、体調がすぐれず、ようやく見つけた仕事も満足な賃金でなく、悲観しておりました。長女が高校入試を控えた受験生でもあり、仮設住宅では机一つ置けない状況で学習塾に通い始めたわけですが、いただいたお金で月謝も支払うことができ、大変助かりました。お陰様で志望校に合格しまして、現在高1です。元気に通学しております。その通学にしても、我が町には通学に使える公共交通機関がありません。その為親が持ち出しして通学バスをチャーターしています。そのバス代としてもありがたく使わせていただいております。卒業するまでバス通学になるので、使わせて頂きます。長男は震災時、小6で卒業間近でした。中学入学にむけて準備していた学生服や運動着も流出しました。それらをあらたに購入したり、文具、備品を購入するのにも使わせていただきました。部活動にもちよくちよくお金がかかるので、ご厚意がなければ、何も出来なかったと思います。皆様からのご厚意は、子供達を無事に育てあげることで恩返しになるかと思っておりますので、これからもよろしくお願ひします。

【 父 】

中学1年生、高校1年生と母から

寄附金ありがとうございます。

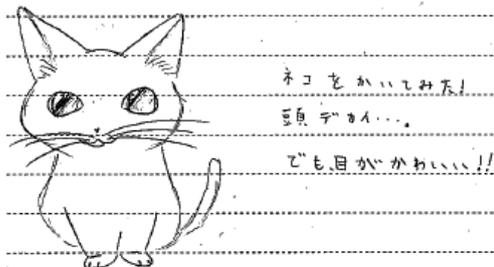
去年の大きい地震はすごかったです。その日は学校で総合（学習）をしていました。作文を書いている時にその地震が来て、ほかの人達はみんなおどろいていて、その後に体育館に行き寒かったので、4階の教室などで親が来るのを待っていました。そして外へ出たら、れんがやいろいろな物が落ちていました。

家に帰って来て何日かしてから父がどこにいるのか分からなくなると聞いて、とてもショックでした。

父は津波で流されていってしまったようです。

津波の力はすごくこわいと思いました。

これからも寄附金をよろしくお願いします。



【中学1年生】

今回の寄附金を頂けたこと、ありがとうございます。

今回の震災で、人とのつながりの強さを実感しました。顔も名前も知らない自分達にこうして何かをしてくれるというのは、同情ではなく激励の一つなんだと思います。

このメッセージを書いている今、そして学校生活で勉強と部活で充実している今、そしてこのメッセージを読んでいる今、それは一瞬の出来事で二度と同じ事はないと思います。

だからこそ、こうしている今、現在を大切に悔いの残らないように全力で頑張っていきたいです。この度は、本当にありがとうございました！

【高校1年生】

御寄附、支援をありがとうございます。

子供たちは勉強、部活と毎日大変そうですが、楽しく生活が送れていると思っています。

私は仕事も震災前と同じ職場でがんばっています。

子供たちは主人の死を自分なりに受け止めて、日々明るく接してくれています。

でも、私が目で見て「いないんだ…」と…。

分かってはいますが、気持ちの整理がつかず、「ダメ」と思いつつも、まわりにイライラをぶつけてしまっています。

また以前のように心の底から笑える日が来る事を願っています。

本当にありがとうございました。

【母】

中学3年生、大学2年生と父から

この度は御寄附をお寄せいただきありがとうございました。みなさんからいただいたものは現在、学習塾や夏季講習などに利用させていただきました。今年、受験を控えている私にとっては大変力となり、心からみなさんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。

去年の東日本大震災により、環境の変化、経済的な面にも大きな負担がかかる中、みなさんの大きな大きな応援により、今の生活にも慣れ、十分すぎるほどの学習環境を整えることができ、受験に向けての勉強を存分におこなうことができるようになりました。なので、私はこれからよりいっそう受験ムードが高まる中、感謝の気持ちを常に忘れず持ち、そんなみなさんの応援を裏切らないよう、この整った学習環境の中で、第一志望校合格といった目標を達成できるように、この残された時間を無駄なく活用していきたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。これからも応援のほどよろしくお願いします。

【中学3年生】

昨年起きた東日本大震災で、住んでいた地区は甚大な被害を受け、私は家を流され、母と祖母を亡くしました。その他にも、親しくしていた人達もたくさん亡くしました。その当時、私は本当に震災前のように暮らしていけるのだろうか、とても不安でいっぱいでした。

私は高校を卒業し、大学入学へ向けて準備をしている時期でした。しかし、避難生活中はそのことなど考えている余裕などありませんでした。それから2ヶ月が過ぎた頃に、ようやく大学生活が始まりました。その頃は、住み慣れた環境から、新しい環境に変わり、震災の影響から不便な生活でした。学用品も一からそろえなくてはならず、金銭的にもとても大変でした。そのような生活をしている時に「東日本大震災みやぎ子ども育英基金支援金」をいただき、とても助かりました。そのおかげで、無事大学2年生に進級することができ、今も3年生、そして4年生へ向けて学業に励むことができます。今でも交通の不便は残っている状態が続いています。完全に元の生活に戻ったわけではありません。元の生活に戻るにはこれからどのくらいかかるのかわかりません。しかし、元の生活に戻れるよう、毎日ががんばっています。支援いただいたみなさまに感謝し、これからも頑張っていきます。

【大学2年生】

東日本大震災で妻と母が被災し、自宅も津波で流され、現在は子どもたちとアパートで生活しております。

震災から1年6ヶ月が経過しましたが、時間が経過しても心の痛手は癒えることはありません。自宅再建についても、集団移転計画が進まず何年かかるか分からない状態です。

そのような中でも、子どもたちは不平不満も言わずに元気に生活しております。中学3年生の子どもは、毎日部活動で汗を流しておりましたが、現在は受験勉強に取り組み頑張っております。大学2年生になる子どももアパートから通学しながら大学生活を送っております。

(続く)

私は、子どもたちが心身共に健康に成長し、将来自立し社会に貢献できる大人に成長して欲しいと願っております。これが、亡き妻や母そして支援していただいた皆様の気持ちに応えることだと思っております。

未だに厳しい環境に置かれた子どもたちは数多くおります。その子どもたちが安心して生活し、学校生活を送り、望む進路が達成できるように、これからもご支援の程よろしくお願いいたします。

ご支援を心から感謝致します。ありがとうございました。

【 父 】

高校1年生と母から

当時、私は中学生でした。

皆様の温かいご支援のおかげで、今は高校にも合格し、部活動や同級生たちと楽しく毎日を過ごしています。

これからもまじめに前向きに生きていこうと思っています。

本当にありがとうございました。

これからもがんばります。

【高校1年生】

あれからもう1年半になろうとしています。

主人は、まだ46才でした。震災からちょうど1ヶ月後、4月11日に無言の帰宅となりました。未だに信じられず、受け止められずに過ごしておりますので、まだ行方不明の方々は、どんな思いで過ごしているのかと思うと心が痛みます。

当時はショックと末っ子（小4）の心情が心配で仕事をやめてしまい、今は自身の年齢もあり、なかなか働くところもないのが現状です。しかし、皆様の温かいご支援のおかげで、残された家族みんなで前向きに元気に過ごしております。これからも皆様のご支援を無駄にすることなく、まじめに元気に生きて行こうね！と、子どもたちと話し合っております。皆様からのご支援本当にありがとうございました。

【 母 】

高校2年生と母から

寄附していただいた皆様、本当にありがとうございます。私は現在、県内の高校に通う2年生です。

当初、誰もが経験することの無かった震災。日本中が混乱するなか、震災で家族をなくしたり、家を失ったりした私達に手を差し伸べてくださり、その知らない人が知らない人へ寄附する心が私達を救いました。震災から約1年経った今でも、何か大切な人や物を失うことで、「失った」と分かっている、ある日「希望」をもって戻ってくることを期待する日々もありました。そして、普段は優しい町の人が震災の翌日あたりから物資を求めて我先にと手に入れようとする人も見えました。ライフラインが絶たれ、当たり前のようにお風呂に入れないイライラ、満足には食べられない食事。一体、この時間がいつまで続くのか不安な毎日でした。この何万と被害を受けた中の一人ですが、その一人のために、どれだけ多くの方が手を差し伸べてくれたのかと思うと、本当に素敵なおところに生まれたなど、感謝の気持ちでいっぱいです。今は非力な高校2年生ですが、社会に出たら困っている人を絶対に救ってあげたいです。

皆様、本当に力を貸してください、ありがとうございました。そのお陰で今の自分が生きていられるのは過言ではありません。

【高校2年生】

あの日から一度も連絡のとれない夫を探しに、何度も娘と二人泣きながら職場、避難所、病院、そして安置所を回る日々。3月末、私の誕生日に安置所で対面、死亡届を出しに行った役所で泣き崩れてしまったこと、何度も来る余震に、動かなくなる娘の手を取り、2度も流されてたまるか！と、夫の遺骨をかかえて逃げた日々。これからの生活、夫のいない悲しさ、立ち上がれるだろうか？先が見えない。どうしよう。

そんな中、皆様にとっても温かい支援を頂き、どれだけ心強くそして“生きる力”をもらったことか。

娘も高校に入り、“やりたい事をやりとげたい！”と日々学業、部活動に励んでいます。

私もやっと仕事復帰しました。

自分達ではのりきれなかった。たくさんの方々に支えて頂き生きていられる事を心から感謝しております。

悲しみは一生続く。ならば、ともに生きればいい。時には笑いながら。

ご支援をいただきました皆さまに深く御礼申しあげます。そして皆様の幸福をお祈りしております。本当に大混乱の中、たくさんのご支援ありがとうございます。

【母】

高校生（1，2年生）と母から

東日本大震災から1年半が過ぎ、被災地のがれきも撤去されて、徐々にもとの町に戻りつつあります。

震災当時、私はまだ中学2年生でした。その時はまだ震災のことや父を亡くしたことは分かっていながらも、どうしても受け入れたくなくて、ただただ泣いてばかりいました。そして中学3年生になり、私も初めての受験生になりました。友達みんな私の父が亡くなったことを知っても、変わらず明るく接してくれました。そんな明るさや優しさに泣きそうになる時もあったりしましたが、無事中学校を卒業し、志望校に合格することができました。

この震災を経て、私には将来の夢ができました。それは母のような看護師になって、たくさんの患者さんを笑顔にすることです。看護師という仕事は、簡単な気持ちではなれないことも、とても大変な仕事であることも、母を見ているとすごく分かります。それでも、私は看護師になることをあきらめません。そして、たくさんの御支援を頂いた方々への感謝の気持ちを忘れずに、一歩ずつ夢に近づいて行けたらいいなあと思います。

これからも、家族みんな笑顔を大切に頑張っていきたいと思っています。御支援本当にありがとうございました。

【高校1年生】

東日本大震災から約1年半が経ちました。私が住んでいる町は、少しずつですが復興へと近づいています。

皆さんの御寄附のおかげで、私たち家族は安定した生活ができるようになり、学校にも普通どおり行くことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

震災で父が亡くなってしまいましたが、いつまでも悲しんではいけないので、これからは残された家族で一步一步前へと進んでいきたいと思っています。

【高校2年生】

東日本大震災から一年半が過ぎ、夫や親戚を亡くした悲しみから少しずつ立ち上がろうとしています。職場も被災しましたが、やっと一階部分の工事も終わり通常業務に戻りつつあり、職場の方々にも支えられ、何とか仕事の方も頑張っています。ただ、仕事モードにリセットできない日もあり、ちょっとしたことで涙が出たり、みんなと一緒に笑えなかったりすることも、まだ時々あります。

看護師をしているので、患者さんや職場の人達の前で悲しい顔を見せてはいけないと思いつつも、どうしても3.11あの日のことを思い出してしまうことがあります。

(続く)

娘たちも、つらいながらも学校や部活動に励み、私がメソメソしていると「お父さんはいつもそばにいるんだから…がんばらないと！」と逆に励まされます。その娘たちも大変な職業だと分かっているのでしょうけれど、看護師を目指し頑張っています。看護師になることが御寄附御支援を頂いた方々への恩返しになると信じながら…。

町も私たち家族も、まだまだ復興の最中です。

御支援を頂いた方々に対しましては、感謝の気持ちを忘れることなく、親子共々頑張っていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

【 母 】

高校1年生と祖父から

私は高校に入学することができ、高校では新しい友達ができ、難しくなった勉強もテストがあるごとに頑張ってお勉強にはげみ、楽しい高校生活を送ることができています。

部活は、いくらでも人のためになればとボランティア部に入部しました。部活では、ペンキぬりをしたり、学校内のポスターの作成、学校周辺のごみ拾い、保育園などの草取りを集中してやっています。部活の先輩は、みんなおもしろい方ばかりで、部活がとても楽しいです。今後文化祭でリサイクルショップなどをやる予定で、高校生になって初めての文化祭どんなものになるかとてもわくわくしています。

これからも勉強、部活、遊びを両立させて、1度しかない高校生活を楽しみたいと思っています。

【高校1年生】

震災から1年半が過ぎましたが、もう1年半、まだ1年半かと思いながら暮らしております。震災直後、連絡がとれない娘は絶対に助かっていると信じていましたが、津波に流されて亡くなり、孫が残されました。なんにも考えることができませんでした。それでも、何とか孫を育てなくてはと思い、まずは高校に入学をさせなければと孫と話をしました。本人も亡くなった母親との約束もあり、頑張ることを約束しましたが、成績がふるわずこまっておりました。この時こそ、支援金を役立てる時と思い、家庭教師をお願いして、見事志望高校に合格することができました。本人のすばらしい頑張りでした。学校においては自動車通学をしています。新しい友達もでき、楽しい高校生活を送っているようです。今はワープロ2級検定試験にむけて勉強中です。

私たちをわすれずに支援していただき、大変心強く、心より感謝を申し上げます。

【 祖父 】

高校1年生と母から

こんにちは、皆さんの寄付金のおかげで私は今とても充実した生活を送っています。第一希望だった高校に無事合格し、春から高校生となりました。高校は自宅からはかなり遠く、最初は通学に不安も感じていましたが、今は慣れてきました。また私の中学校からは同じ高校に進学する人がいなかった為、一人で大丈夫かと心配な気持ちと楽しみな気持ちの両方ありましたが、高校では、みんな気さくでいい人ばかりで心配な気持ちはすぐ無くなりました。

部活では、吹奏楽部でトランペットを吹いています。先日行われた夏のコンクールでは、創立以来初となる東北大会出場を果たしました。練習は大変でしたが、先輩や同級生と過ごした部活はとても楽しかったです。

私の高校は、二期制なので、もうすぐ期末テストがあります。進学校ということもあり、授業の質の高さや周りの人たちの考え方にいつも良い刺激をもらっています。少しでも手を抜いたらどんどん追いつけなくなってしまうので、これからテストまでの期間、一生懸命勉強したいと思います。

これからも、部活に勉強に精一杯力を注いでいくので、応援よろしくお願いします。

【高校1年生】

この度は、たくさんの方々からあたたかいご支援をいただき、本当にありがとうございました。心から感謝しております。震災でかけがえのない夫と義母を亡くしました。義母は今もなお行方不明のままです。思い出のたくさんつまった大切な我が家も流されてしまいました。深い悲しみに押しつぶされそうになりながら、一日一日を必死で生きてきました。避難所、親類の家を転々とし、今は仮設住宅で娘と二人で暮らしています。震災から一年半がたち、少しずつですが、気持ちも生活も落ち着いてきたように思います。

この春、高校生になった娘は、とても充実した毎日を過ごしているようです。勉強に部活に頑張っています。娘がこうして安心して高校に通えているのも、御寄付をお寄せ下さった方々のおかげです。ありがとうございました。これからも見守っていただけましたら幸いです。

【母】

高校3年生と父から

今回、東日本大震災みやぎこども育英基金にご協力いただき、本当にありがとうございます。私は、今回の震災で家は全壊、母、弟、祖父母、叔母を津波によって失いました。しかし、私は絶対に挫けず強く生きようと心がけて毎日を過ごしています。現在私は高校3年生で日々大学進学に向けて勉強に勤しんでいます。大学での目標は、一般人にとっては害とされている毒や酵素阻害剤などから新薬開発へのヒントを得て、副作用が少しでも軽減できるような薬の研究をしたいと考えており、将来は難病や副作用がある薬を服用して苦しんでいる人達を助けるために、今までにない方向から医療の現場を支えていきたいです。そして、私の父が患っている難病を研究し、治らない病気から治る病気にできるようにしたいと考えております。これからは、御寄付をお寄せいただいた方々に少しでも恩返しができるように、より一層、勉強に勤しみ、将来の目標に向けて頑張っていきたいです。

【高校3年生】

震災にて、妻と次男が犠牲になり、御支援を頂いています高校3年生の長男の父親です。この度は多くの方々の御支援に厚く御礼申しあげます。生活の場所そして家族も一変して、私と息子の二人だけの生活になって、ただ時間が過ぎて季節が変わる日々に追われながら、高校3年生の長男の受験の為に日々生活を送っている状況であります。妻も実家の両親も第一に長男の進学の為に日々生活を送っていた毎日から、一人で背負う急変した生活にみんなの分、妻、実家の両親と4役分をしようとしている私を理解して、母、弟、祖父母の居ない悲しみを必死に堪えて受験に向けて頑張っています。皆様の御支援に御返し出来る事は、専門分野を学びそれを仕事に反映して、その一つ一つが皆様の御役に少しでも立って貢献出来るように、私共々頑張っていきたいと思っております。

【父】

高校3年生と母から

震災にあってからは、つらいことが本当にたくさんありました。生活面や精神面にも、今でもそう思うことがあります。しかし、そういったことも徐々に良くなっています。それは、多くの方々に支援していただいたおかげだと思います。本当にありがとうございました。

また、私事ではありますが、就職の方で内定をいただきました。来年から社会に出たら、お世話になった方々に御礼できるよう努力していきたいと思っています。

【高校3年生】

このたびは、多くの方からのご支援、大変ありがとうございます。まだまだ気持ちは落ち着きませんが、こんなにも多くの方々が応援してくださっていることに感謝しながら、不安や寂しさの中、毎日過ごしています。

子供達には、これから社会に出て行くうえで、いつも感謝の気持ちを忘れず、少しでも誰かのお役に立てるような人になってほしいと願っています。

【 母 】

高校3年生と母から

震災から1年半が経ち、180度変わった環境にも慣れ、今は前のように平穏な日々を過ごしています。

母と2人になってから子供ながら色々なことを心配していたものの、自分では母の力になることはできず、参考書などの勉強用具を買うのにも気が引けていました。しかし、みなさんのご支援のおかげで母の負担も減り、私も大学受験に向けて勉強に集中できるようになりました。大学に合格し、一刻も早く自立して、母を支えていけるように頑張っていきたいです。本当にたくさんのご支援ありがとうございました。

【高校3年生】

震災から1年半が過ぎました。

さびしさや不安は、時間がたつほど大きくなっていますが、やらなければならないことが次々と起こり、悲しんでばかりいられない現実にとまどいながら、それでも今私が生きているのは、子供を守りたいという思いと、支えてくれる皆さんのおかげです。

子供も最後まで部活をやりとげることができ、今度は自分の夢を実現するために、大学受験にむけて勉強に励んでいます。

たくさんのご支援、本当にありがとうございました。

【 母 】

高校生（1，3年生）と父から

今、私が一番力を入れているのが部活動です。所属はバスケットボール部です。バスケは主に走ったり、跳んだり大変疲れるスポーツです。練習は走ることがメインで、いつも山付近などの坂、震災で歪んだ道路などで走ることが多く、過酷で苦しくて疲れてしまう。しかし私は、過酷で苦しい部活動には仲間がいる。仲間がいるから楽しくて、楽しくてしかたがないと未熟なりに考えています。

部活を普通にできるようになったのは皆様の多大なるご支援があったからだとは思いますが、皆様のおかげでチームスポーツの楽しさを感じることができました。私が皆様に恩返しするには、一生懸命頑張ることだと思います。皆様にしていただいたことより本当に小さなことかもしれませんが、私はこの感謝の心が届けばいいなと日々願っています。ありがとうございました。

【高校1年生】

私たちのためにわざわざ御寄附をお寄せいただいた方々、本当にありがとうございました。私はあなた方から色々なものをいただきました。一つ目は人の眩しさ、二つ目は人の温かさ、これ以上は、もうわがままになるほどいただきました。あなた方から頂いたお金は私が進学するために使いたいと思っております。私は自分の故郷を復興させたいと思っています。しかし現時点ではどうしたらいいか分かりませんでした。なので大学に行き、自分の視野を広げると同時に、復興に関する知識を学び、この町へ帰ってきたいです。震災からの復興はとても困難な道のりです。ですが私は必ず町が復興できると信じています。

私の学校生活では、去年の夏休みまで全校生徒が半分に分かれ、別々に授業をしてきましたが、今は全校生徒が一緒になって楽しく学校生活を送っています。この間も、文化祭では全校で一丸となり文化祭を成功させることができ、とても楽しい思い出になりました。1ヶ月後には体育祭があり、各クラスで体育祭に向けて準備をしています。私もとても楽しみで仕方ありません。こんな感じで私は楽しくやっております。

最後になりますが、私は今がとても楽しい。学校に行けること、友達とくだらないことで笑いあえること。このような思い出をくれたあなた方に「ありがとう」と私は言いたい。

【高校3年生】

多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございます。

年のせいか、最近特に涙腺が緩くなった気がします。毎年欠かさず見ているTV番組「熱闘甲子園」。表舞台に出ることのない数々のドラマを見て、「うーんわかるわかる…」頷きながら納得し、目頭が熱くなることしきりでした。野球部員達の甲子園に対する熱い思いがダイレクトに伝わってくる気がしました。自分も昔野球をしていたことがあって、タイムスリップしたかのような「自分だったらこうする、できる、できない、」などと自問自答しながら同じ部員になって画面に吸い込まれ…とにかく感動です。

(続く)

さらに、今年はロンドンオリンピック・パラリンピックもあり、毎晩のようにティッシュがお友達でした。特にパラリンピック。「スゴイ、スゴイ…」しか言葉にならず、涙腺はフルに緩みっぱなし。本当に目標に向かって頑張っている姿は、ワンダフル・ビューティフルです。惜しみない拍手をおくりありがとうと言いたい。感動とパワーをありがとう!!

さて、感動とパワーをもらった私の毎日はいかなものか?? 生きている喜びを感じ、精一杯に生きる。生かされた命を大事にという言葉聞いたことがあるが、納得する自分と納得いかない自分と。ポジ自分・ネガ自分とが行ったり来たり。毎日朝を迎えられるということは、前進していることだと感じつつ眠りにつくのですが…。「3歩進んで2歩下がる、いや3歩下がるかな?」「明日今日よりも好きになれる??」うーんどうだろう (??)

今一番欲しいものはと聞かれたら……迷わず、タイムマシーン!!

【父】

専門学校2年生と母から

こんにちは。私は今回の東日本大震災で大好きだった父と故郷を失いました。被災当時、私は偶然地元から高校へ大学後期試験の勉強のために来ていたため、命は無事でした。当時はまさか地元津波が到達し、被災しているとは夢にも思いませんでしたが、数少ないニュース情報、翌朝の朝刊に記載されていた津波により水没している地元の写真を見てようやく現実味を帯びたのを今でも鮮明に思い出されます。

母とは171の伝言ダイヤルで無事を確認できたものの父とは音信不通のまま、地震から20日以上を経て遺体で発見されました。悲しいはずなのに、数多くの地元の知人、先輩、後輩の多くの遺体が並べられたその光景に“無”といった感情はこういうことなのかとふと思いました。突然今まで、その日の朝まで過ごしていた家、話していた人、育ったところの建物や景色が一瞬にしてなくなることがこれほど“無”という感情を作り出すのかと感じました。

被災をし、5月には看護学生として新学期を迎え、あっという間に1年半が経ったと感じています。

大切な感情をひとつ失った気がしますが、それでも明るく元気に生きています。金銭面でも多くの支援を多くの方にしていただき感謝しています。この感謝の気持ちを忘れず、将来の夢を叶え、亡き父へ親孝行ができるように頑張りたいと思います。

【専門学校2年生】

東日本大震災で、我が家は沿岸部にあったため家は全壊し、主人が亡くなるという、予測すらできない現実と直面してしまいました。当時娘は、大学二次試験に向けて翌日という緊張した時をたまたま通っていた高校で体験し、後で父死亡という受験期特有のあの時誰もが持つ気持ちが一転してしまいました。父を愛して育った娘の何にかえがたい失望感、側にいる母親の私には全てのやる気力がそぎ落とされ、それが心の中に入り込み、絶望感となるのではないかと、この先全ての希望が暗闇の中へとつき進むのでは、そんな感じさえ頭から離れませんでした。中学の頃から、助産師という夢に向かって勉強してきた18歳の子が、この先、その目標に向かう「力」があるのだろうか。それ程、娘にとっての「父の存在の欠如」は左右したのです。しかし、存命中に唯一合格していた現在通う学校へと進学し、目標へと勉強しています。各方面の皆様からの御寄付を頂きながら助産師への目標に向かう姿勢を、娘は心に誓っております。「パパが私が助産師になるということを願っていたから。」そんな言葉を時として口にしながらいる娘の背中を見るにつけ、たくさん勉強し様々な先輩や指導者に支えて頂きながら、身につけて欲しいと願っています。勉強する姿勢や皆様から受ける恩を忘れず、感謝しながら「ひとりよがり」の考え方をしない、まあるく、優しい人間として持つべき心である助産師となり、今度は、社会人の立場になった時、世の中へと受けた恩をお返しできる人間になれるように娘を応援し、サポートしていきたいです。勉強できる環境にお力添えを頂きまして、誠に有り難うございます。（娘を応援してまいります。）

【母】

母から（子ども：高校生、海上保安学生）

間もなく大震災から1年半が過ぎようとしております。私たちはあの日の朝まで4人家族でした。私、夫、高校2年長男、中学2年次男、いつもと変わらない日常がはじまったのに、午後2時46分忘れもしない大震災、私は一時間後、夫と連絡が取れました。「気をつけて帰って来てね」「うん、わかった」それが最後の会話でした。

10日後3月21日朝、宮城県警のHPで夫の名前を見つけ利府のグランディに迎えに行きました。数え切れないほどの棺。私は頭がおかしくなりました。案内され棺の窓から夫を確認し、「どーやって生きていけばいいのー」「なんでー なんでー」「私も連れてってー」と棺にすがって泣きさけびました。私は次男を出産時に危うく母子共に命を落としそうになり、以来、長時間労働に就けずパートで働いておりましたので、夫の収入だけが頼りでした。先の見えない不安とショックで言葉がうまく出なくなりました。

2人の息子達、特に次男は父親が大好きで週末になるとバイクに乗り父の背中にしがみついたりツーリングや釣りにでかけていましたのでショックがとても大きく、学校に行っても保健室で一日中泣いてばかり、4月からは受験生なのに成績はドン底まで下がってしまいました。中学校の担任の先生方はじめ沢山の方々に支えになっていただきましたが、思春期ということもあり家の中で暴れたり大変でした。時間がたつにつれ死の悲しみに加え父の居ない淋しさが重くのしかかり心の拠り所をなくした息子でしたが、父の言葉「高校合格したら釣りでも何でも連れて行ってあげるからがんばれよ！」を思い出し、一生懸命勉強し、第一志望校に合格しました。「楽器は辞めるなよ」と言っていた言葉通り、今はブラスバンド部でバスクラリネットを吹いて、9/8（土）には東北大会に出場します。卒業後は大学に進学し「直轄警察犬訓練士」を目指します。時折父の居ない悲しさ淋しさに苦しみ、心が折れそうになりますが、高校を休まず通っています。

当時高校2年生の長男は野球部でキャッチャーをしていました。中学時代から人命救助の道に進みたいと考えておりました。TVで「海猿」を見てからはその気持ちが強くなっていきました。父親も、長男の志を大変心強く思い本当に応援し、資料等を集めてくれていました。震災で父親を亡くした事でその意志は決定的なものとなりました。棺の中の父親を前に長男は泣きくずれながら父の遺体に言いました。「お父さん僕は必ず自分の道を切り開いてみせる、必ず自分の力で歩いてみせる、名前のおりしっかりと、お父さんの名前に恥じないように生きてみせるから」長男が泣いたのはこの一度きりです。高校3年生の7月に野球部を引退してから、9月25日の第一志望校の試験日まで、毎日人が変わったように15時間近い勉強を続けました。長男が受験した学校は海上保安学校です。長男は父の命を奪った海と向き合って生きる事を選びました。海難事故で命を落とす人を一人でも助けたい、悲しむ家族を1つでも減らしたい、たとえ遺体でもそれを待っている家族の元に帰してあげたい、心からそう願い、この仕事に就く事は亡き夫への最大の弔であり恩返しだと信じています。

長男は県内会場の一次試験を受け140名中合格者40名、二次試験にのぞみ最終合格者13名に残りました（全国で87名合格）。

（続く）

長男は現在、海上保安学校で海上保安官としての専門的な勉強に励んでいます。合格し入学しても厳しい日常に耐えられず半分近い生徒が辞めていく中、息子は強い意志を持ちがんばっています。

今私達親子3人が少しずつですが前へ進み時折笑顔になれる生活ができますのは、ご支援をいただきました皆様方のお陰だと心より感謝しております。沢山の方々からのご支援がなければここまで立ち直ることはできませんでした。夫の死を未だに受け入れる事はできません。涙も枯れる事はありませんが、夫は私達3人に全てを託して51歳の生涯を閉じました。私達は夫の無念さを思うと胸がつまり、泣くことしかできません。目標に少し近づいた長男、目標に向かってがんばると決めた次男、この2人の息子の為にも、私は夫のあとを追う事はいけない事だと思っています。息子が社会人としてりっばに生きる姿を見届けることが私のつとめだと思っています。

本当にありがとうございました。

深く 深く 感謝申し上げます。

母から（子ども：未就学児）

東日本大震災みやぎこども育英募金に御寄付をいただいた方々へ

子供が3ヶ月の時、主人があの日震災でなくなりました。思い出すと今でも涙が出ます。子供がどんどん成長していく姿を主人と共に喜べないことが残念でなりません。しかし悲しみにくれている時間はありません。子供はそんな時間を私にはあたえてはくれません。がんばって子供と2人で生きていこうと決めました。その為、皆さまから頂いた寄附金は私たち親子に希望と明るい将来をいただけるように思います。本当にありがとうございました。今後も感謝の気持ちを忘れず、子供の為に使わせて頂きます。現在は子供も1歳9ヶ月と成長し、毎日保育園に通っております。私も就職が決まり、毎日充実した日々を暮らしております。亡き主人に怒られないように子供を大事に育てていこうと思っています。

母から（子ども：小学生）

いつもご支援いただきありがとうございます。みなさんに支えられ、とても感謝しております。あれから1年半が経ちました。少しずつではありますが、家族3人、前へ進んでおります。立ち止まらないよう、一生懸命生きてゆこうと思っています。

母から（子ども：未就学児）

私自身、当時は妊娠5ヶ月中で、息子は1才5ヶ月でした。お昼寝中で、ただ携帯の緊急アラームでそのまま家の外でおさまるのを待つのみでした。あれから1年5ヶ月が過ぎ、無事7月に娘が生まれ、家庭も環境も変わってしまいましたが、心に抱えながらも、子どもたちのおかげでもあり、亡くなった義母、主人のためにも前を向き子どもを育てていき、出来るかぎりのことをし、日々年を重ねていこうと考えています。

支援物資、義援金、本当に何も無しでいた私達にとって、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。

追伸

幸い、お墓は流されましたが、納骨していた骨は流されずに済み、ありがたい事に20年前に亡くなっていた義父やおばあちゃんと一緒に納骨出来る事になりました。せめて一緒に納骨出来た事で私は救われました。

母から（子ども：未就学児）

御寄付をいただき本当にありがとうございました。

震災がおきた時、子供が3ヶ月で主人を亡くしました。

育児をするため会社を辞めたので、これからどうやって生きていこうか不安でしたが、皆さまの御寄付のおかげで子供の将来が明るくなったと思います。

現在は、子供も1才9ヶ月になり、すくすく成長しております。

突然あの震災で片親となってしまいましたが、これから親として出来る限りのことはしてあげたいと思っております。

毎日保育園に元気に通っている姿、少しずつ成長していく姿、主人を思うと時々涙が出ます。

でもこれから前を見て生きていこうと思います。

子供の将来をきちんと守れるようにがんばっていこうと思っています。

今は就職も決まり、毎日充実した日々を過ごしています。

母から（子ども：大学生）

この度は、ご支援いただきありがとうございました。

自宅は海から離れているため津波の直接被害はなかったのですが、通学のための仙石線が大きな被害を受け、大変不便になってしまいました。

震災後、進学するにあたり通学するか仙台に住むか悩みましたが、主人が生前、娘が大学生になった時には一人暮らしを経験させたいと言っておりましたので、皆様からいただいた御支援を使わせていただき、何とか頑張って生活しております。

私も10月から時間は短いですが、パートで働くことが決まり、少しずつですが前に進んでいけたらと思っています。

震災で主人が亡くなった時、これからの生活や学校のことなどどうすれば良いのか悩んでいた時に、いろいろな方から様々な御支援をいただき今日までなんとか生活してることができました。本当にありがとうございました。

母から（子ども：小学生）

3. 11の震災より1年半が過ぎても、常に不安と危機感が消えぬまま、多くの見えぬ先を日々一生懸命生きているような状態です。

父を失った子どもたち。皆様の支援があつての今があることに本当に感謝しております。

時と共に過去のことと消えてしまわないよう…、本当なら忘れてしまいたい、そんな心で気持ちが戦い続けております。

支援頂き支えられている人の温かさに触れながらではありますが、生きていこうと思っております。

2人の子が成長し大人になれるように。支援していただいた方々のようなあたたかい大人になつてもらえるように、母親としても子供を支えていくつもりでおります。

多くのことが変わりました。本当に厳しい現実ではありますが忘れることなく伝え、支えあつて本当に笑える家族でありたいと思います。まだまだ子供の成長と共に抱える問題は多くありますが、今後とも御支援のほど宜しくお願い致します。

心より感謝しております。

母から（子ども：小学生，中学生）

御寄附をいただき、本当にありがとうございます。

主人を亡くし、お金の悩みもいっぱいになったりと、とてもショックでした。その折、御寄附を皆さんからのあたたかい募金で毎日過ごさせていただいています。感謝しながら毎日前向きに子供たちと生活しています。子供たちには御寄付いただいていることは言っていないため、私だけのメッセージとさせていただきます。申し訳ありません。もう少し落ち着いたたら、子供たちに説明したいと思います。

募金をしていただいた方々が、どうか健康で毎日を幸せに過ごせますように、感謝の言葉とさせていただきます。心から感謝しています。

母から（子ども：小学生）

震災後の不安と、夫を亡くしこれからどのようにして子供を育てていったらよいのかと悩んでいた時、みなさんが一人で育てていくのではなく、みんなが助けて育てていくんだよと伝えてくれているようで前向きになれました。

子供も今は元気に学校に通っています。

本当にありがとうございました。

母から（子ども：中学生）

このたびは、御寄附をいただきありがとうございました。

おかげ様で、安定した生活を送ることができ、気持的にも少し余裕をもって、毎日暮らすことができるようになりました。

今、中学1年生の息子はサッカー部に入り、楽しく学校へ通っております。勉強のほうは普通ですが、本当にサッカーが好きなようで、毎日頑張って練習しています。高校は、サッカーの強いところに行きたいと、今から言っています。毎日ががんばっている姿を見て、私もいろいろがんばらないとなあと感思されます。

ご寄附をいただいた皆様には、とても感謝しております。

本当にありがとうございました。

母から（子ども：小学生）

あの震災から1年半が過ぎました。

3月11日の朝に会社に送り出した夫と、これが一生の別れになるとは思いもしませんでした。当時8歳の息子と2人でどうしようと途方にくれていましたが、何とか暮らしています。

1年たったあたりから、私が体調を崩し、ふせってしまいました。でも子どもは元気をとりもどしてきました。

皆様のご好意のおかげで本当にたすかっています。ありがとうございます。

こんなことばでしか返せなくてすみません。

母から（子ども：未就学児，小学生）

ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

このようなご厚意を無駄にしないように親子共に前に進んでいこうと思います。

ありがとうございました。

母から（子ども：高校生，大学生）

去年は高校3年生、中学3年生と二人受験生でした。

大学に進学するかどうか迷いましたが、本人の希望もあり受験し、見事合格することができました。娘は医科大学に決まりました。息子の方は地元の高校に入ることができました。

やはり、大学進学といえば経済的にも大変なので、御寄附をいただいた方に本当に感謝しています。本当に2人とも精神的にも大変だったと思います。行方不明だったので、見つかるまで私も精神的につらかったです。子供たちも口にはだしませんが、勉強どころではなかったと思います。娘は一人ぐらしで、勉強の方もがんばっていると思います。息子は野球部に入っているので、練習がきついみたいです。

みなさんには、私たち家族一同、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

母から（子ども：小学生、中学生）

みやぎこども育英募金にご協力いただいた方へ

募金のご協力、本当にありがとうございます。

今から1年半前の3月11日、忘れることのできない日になりました。

いつ終わるのか分からないような、長い長い揺れでした。単身赴任先の主人のことを思う余裕もないくらいでした。マンションの9階の自宅は、大きな家具の転倒こそ無いものの、物が割れ、散乱している状態。電気は止まり、大きな余震が続いていたので、まずは1階に階段で降りました。中学校、小学校に迎えに行き、近くの実家に落ち着いたのが何時だったのか分かりません。1度だけ主人から避難しているから無事というメールが入り、その後、電源が入っていないというメッセージが流れるのを聞いても不安はなく、自分達の生活を守るだけで精一杯の2、3日が過ぎていきました。電気がつき、報道で主人のメールの後に大きな津波が来たことを知りました。

家族がいることがあたりまえ。そう思っていたことがあの大きな地震、大きな津波によって、失ってしまいました。遠く離れた被災地に簡単に行くこともできず、ただただ帰りを待つ数ヶ月でした。しばらくは、生きて帰ることに望みを持っていました。少しすると、何でもいいから帰ってきて、小さな“しるし”だけでもいいからと思うようになりました。

子供たちは、4月それぞれの最高学年に進級しました。自分達の続けてきたスポーツの仲間を支えられ、励まされ、1日も泣き言も言わず登校しました。子供たちの姿を見て思うことは、なんて強いのだろう。母親の私の方が弱い自分をさらけ出してしまいました。子供たちが前を向いて歩き出してくれたから、私も進むことができました。進路も自分たちで決めて、将来の夢に向かって走り出している姿は、かっこいいとさえ思っています。ただ、不安や悩みが何も無いということではありません。専業主婦の私には、経済的な力もありません。3人で前に進む決意はできましたが、将来は不安ばかりです。健康面でも不安があり、今は一つ一つ、一步一步というところです。子供たちも、私も、たくさん思っていること「なぜ？」という思い、悲しみ、恨み、悔しさ、つらさ、後ろ向きな考えはまだまだあります。でも、何を考えても主人は帰ってこない。だから笑顔でいようと話しています。たぶん、それを主人が父親として一番望むものだと思うから。

子供たちにとって父親はいつでも側にいる存在になっているようです。仕事でほとんど顔を合わせることもなかった父親が、今ではいつでも見ていて守ってくれると思っています。大会前に、写真に手を合わせていく姿が、健気で微笑ましいと思っています。「お父さんに手を合わせていくと、何か良いことがあるんだよ」という息子を本当に素敵だと思います。きっとそれを見ているに違いない、聞いているに違いないと思うのです。

ただ、まだ1年半。成長の一年一年に喜びがあり、不安があると思います。みなさまのご支援が不安を軽くしてくれることに感謝しています。今は、自分の生活だけで精一杯です。いつか、子供たちが恩返しができる人間になれるように、育てていくつもりです。

母から（子ども：未就学児，小学生）

お礼を伝えたいけど、何を書いたらよいか分からず、日が過ぎていきます。

こんなにたくさんの方々から善意をいただいているのに自分は何もしていない気持ちになります。

子どもたちもまだ人の善意をわかる年でもありません。

でも、人を助けようとして亡くなった父親のことや、被災者や被災地のためにたくさんの方から善意をいただいたことを理解させ、尊敬や感謝の気持ちを持たせたいと思います。

今、自分は人のためにできることをやれていません。今は、三人の子供たちをできるだけ人の道からはずれないように育て、将来の社会に貢献できる人にするのが一番だと信じ、自分を甘やかしてしまっています。ごめんなさい。

でも、本当に周りの人の温かい気持ちに感謝し、その心はいつでも持ち続けています。

本当にありがとうございます。

子供たちは、残ったもう一人の親もまたいつかなくなるかもしれないという不安を持っています。

いつも元気な自分でいて、子供たちが安心して生活できる家庭を作っていかなければなりません。

みなさんの善意をそのために役立てなければと思います。

ただ、つらくて甘えている自分もいて、そのことにはお許しをいただけたら幸いです。早く人のために働ける自分になりたく頑張っていきたいと思います。

母から（子ども：高校生，大学生）

ようやく日常を取りもどしつつあるような気がする一方で、失ったものの大きさを痛感する日々です。

幸い我が家は大学1年、高校2年と娘達が大きく、子育てももう終わりに近づいています。

夫と2人でがんばってきたおかげか、2人の娘はよく成長しており、その娘達に支えられ続けた1年半でした。

たくさんの方の支援をいただいていることも心の支えです。ありがとうございます。

娘達には、将来何かのかたちでこのご恩をお返しするようにと話しています。

母から（子ども：中学生、高校生）

3. 11。あの日から、私達家族は生きているのか死んでいるのか…そんな日々を過ごしていました。

震災から1年半が経ち、少しずつ気持ちの整理も出来てきました。主人、父親という存在をなくし、子供達と何が起きたのか分からず、ただただ呆然と一日一日を過ごしたような気がします。私の実家の町も津波で町一つ消えてしまい、2～3ヶ月程、連絡を取る事も会う事も出来ず、何かをしよう！という気持ちもなく、今となっては一日一日の日々を何をして過ごしていたのか憶えていません。子供達にとっては父親の存在はすごく大きく、学校が始まって登校する事もなく…そんな毎日でした。

今は、長男が無事高校受験にも合格し高校1年生、次男は中学1年生になりました。高校は、小・中学校とは違い義務教育ではないので、色々大変ですが、皆様の御寄付のお陰で、時々休む事はありますが楽しく元気に学校へ登校しています。学校を休む時（休んだ時）は、その度にたくさんの方々の御寄付を頂いて生活が出来ている事、学校へ行ける事、あなたたちは、その方々の気持ちに応じて、勉強、部活に励み、生活できている事に感謝をしなければいけないという事を話しています。

本当にありがとうございました。

母から（子ども：高校生）

今年息子は高校に進学しました。震災後、受験をひかえどうなるか心配でしたが、無事希望の高校に合格できました。

震災では主人を亡くし、自宅も流失してしまいました。自宅は基礎の部分を残してあとかたもなく、まわりをさがしてみても、何もみつけれませんでした。

受験をひかえ将来のことがとても心配でしたが、たくさんの方々のご支援のおかげで、少しずつ必要な物をそろえて、以前のように学校生活を送ることができるようになりました。

今後の生活に不安はありますが、みな様のご支援で息子の学校生活は成り立っています。本当にありがとうございました。

いずれは社会人となって仕事を担い、世の中に貢献できる人間になってほしいです。

母から（子ども：高校生）

常日頃たくさんの方々、たくさんの心温まるご支援を頂戴し、この紙面をお借りして御礼を申し上げます。ありがとうございます。

震災の後、今まで住んでいた家、車、そして主人、何もかも失ってしまい、現実が本当のことなのか、夢なのか、これから先、何もかもなくなってしまう、娘二人をかかえてどう生きていけばいいのか、娘達を学校に通わせることができるのか、途方にくれる日々でした。

娘達も私もその日に着ていた服しかなく、また、学校の教科書や運動着、その他辞書、本当にこれから先どう生きていけばいいのか考えられませんでした。

それでも、津波をかぶったアパートですが、新学期に間に合うように入居することができ、学校に間に合わせる事が出来ました。

それからは、制服からブラウス、筆記用具、ノート等々、数えきれないほどの支援を受け、また、全国の皆さんからたくさんの義援金、また娘達には各支援団体さんからたくさんの奨学金を頂戴し、本当に感謝しております。

長女は高三で大学受験を目指しておりましたが、この震災で一度は断念したようですが、公益財団のおかげで志を貫くことが出来ました。

これも本当に全国の皆さんのおかげと親子共々感謝しております。

この震災が“想定外”という言葉で片付けられることは、私達にはとても悲しいことです。

それでも周りの皆さんの温かい心を知ることができ、これからも少しずつ前に進んで行けたらと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

母から（子ども：大学生）

東日本大震災により大切な家族を失い、これからの生活に大きな不安をいただいていた私でしたが、大学生だった息子に「大学を続けていいの？」と言われたことや、高校生の娘に「学校に行かない」と言われ、私がしっかりしなければとかなり強気で「大丈夫！お母さんがいるから」と答えたのを覚えています。

あれから1年数ヶ月。子ども達はたくましく頑張っています。

娘は4月に志望大学に入学し、息子は大学3年になりました。いつまでも泣いてばかりいられないので、子ども達に支えられながら、私も前に進み始めました。主人と主人の両親と私の両親と5人の大切な家族のことを考えない日はありませんでした。まだ主人は見つかっていません。1日でも早く、子ども達のところに帰ってきてほしいと願うばかりです。ここまでののに、子どもの将来を不安に思い、どんなに皆さんの支援に支えられたことか。おかげさまでここまでたどりつきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ不安はありますが、子ども達の将来を楽しみに、もう少し元気に頑張っとうと思っています。

「みやぎこども育英基金」の皆様、子ども達に未来をありがとうございます。

母から（子ども：未就学児，小学生）

この度は、たくさんの方々から心のこもった寄附金をいただき、本当にありがとうございます。たくさんの方々にご迷惑をかけてしまっているのではないかと思います、大変申し訳ない気持ちです。皆様からいただいた寄附金は一円たりとも使わず、子供の口座に大切に保管しております。そして子供がもう少し大きくなったらこのことを話し、たくさんの方々に感謝し、社会の役に立つ人間になるようにと教えてあげたいと思っております。

早いものであの震災で主人を亡くしてから一年半が経ちました。子供は小学3年生ともうすぐ4才になります。同居している主人の両親にも支えられながら暮らしています。子供の世話やパートの仕事で毎日が慌ただしく過ぎていますが、ふと一人になる時間があると悲しみで絶望的な気持ちになる時があります。でも子供達のためにも一緒に生きていかなければならないといつも自分に言いきかせております。震災の後、これから先どう生活していけばいいのか悩みました。今まで午前中のパートで働いていたところを辞めてフルタイムで働こうか、など考えました。でも寄附金のおかげで今まで通り長年働いたところを辞めず、子供にさみしい思いをさせず、安定した生活を送ることができ、穏やかな日々を送っております。これもひとえに皆様のあたたかいご支援のおかげだと思い、深く感謝しております。今回、このような形で見ず知らずのたくさんの方々からあたたかい気持ちをいただき、本当に励まされました。自分の子供たちには、思いやりのある子になるよう育てていきたいと思っております。

本当にありがとうございました

母から（子ども：高校生）

息子が震災にあったのは高2の3月でした。

進路で迷った高3の時、学校の先生から各方面の奨学金の手続きを進めていただき、「東日本大震災みやぎこども育英基金」様にも現在も大変お世話になっています。

皆様に支えられ、息子も進学を決めました。今は勉強に部活動に頑張っています。

本当にありがとうございました。

母から（子ども：高校生）

津波で夫と家をなくしてしまいました。当時、子供達は学生でした。上の2人は、今年、無事卒業できましたが、奨学金がなければどうなっていたことか？末の娘も来年卒業します。寄付をして下さった方々のお顔もお名前もわかりませんが、本当に助かりました。ありがとうございました。感謝、感謝です。

母から（子ども：小学生）

たくさんの方からのご厚意により、お寄せ頂いた寄付金を頂戴し、感謝しております。子供は生まれ育った土地から離れ、全く違った環境で生活するのはどうなるのか心配でしたが、今では新しい生活にも慣れ、元気に学校に通っています。現在何不自由なく生活できるのも支援金のおかげです。毎日が楽しそうで、今はサッカー教室に通っています。学校とは違った団体行動の中で、協調性や相手を思いやる気持ちが育まれていけたらと思います。震災当時の話しをするのは少なくなりましたが、心の安定にはまだまだ時間がかかるかと思えます。支援金を頂くといつも思うのですが、物質面での悩みは軽減され精神的に安心します。震災にあったから大学に行けなくなった…などないように、貧富の差が子供の将来を左右しないようにと願っています。成人するまで、長い道のりです。これからも温かく見守って下さい。

母から（子ども：未就学児）

3月11日に夫を失った日、娘はまだ3ヶ月を過ぎたばかりでした。あの時は、この世に一人ぼっちになったような気がして、先のことは全く考えられませんでした。あの日の恐怖を忘れることはありません。時間が過ぎるとともに、私一人で娘を育てていけるか不安な日々を過ごしましたが、周囲の人に助けられ、少しずつですが、前に進んでいます。

東日本大震災みやぎこども育英基金は、娘の将来の大きな希望になりました。顔も知らない、会った事もなければ、話した事もないたくさんの人達から多くの温かい支援をいただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。人と人はつながっているんだと強く感じました。

あの時の娘も歩くようになり、少しずつですが、言葉も話すようになりました。日常の中で感謝の気持ちを忘れず、娘が理解できるようになったら、こんなに多くの人たちに助けられたんだと伝えたいです。一生忘れる事はありません。本当にありがとうございます。

母から（子ども：小学生、中学生）

東日本大震災という予想をはるかに超える災害により、大切な家族を失った方がたくさんいます。私も大切な主人を亡くしました。子供達は大好きなお父さんを亡くしました。あまりにも突然の別れで、ありがとうもサヨナラも言えないまま、永遠の別れが来てしまいました。現実なのか夢なのか、本当なのか嘘なのか何もわからず、ただ、ここにこうしている事だけで、精一杯の日々を過ごしていました。何気ない日常を普通に暮らしていた時には気付かずにいた事が、大震災でどん底に落ちてしまった事で気付かされ、あらためてわかった事がたくさんありました。それは、身内の優しさ、近所の方の優しさ、友達の優しさ、そして何より一度もお会いした事のない世界中の方々の大きな優しさでした。

こんなにもたくさんの方々が、多くの愛で色々な形の優しさを与えてくれている事に、私は本当に助けられ、救われました。有り難うございますという言葉しかお返しする事ができませんが、本当に心から感謝してもしきれないほどの気持ちでいっぱいです。

子供達は、私の何十倍も頑張っています。子煩悩な父親だったので、子供達は父親が大好きでした。きっとこれからもずっと大好きでいてくれると思います。自分たちの夢に向かって、一歩ずつでいいので進んで欲しいと思っています。それが、助けていただいている皆様への恩返しになるのかもしれませんが。主人は見えなくなってしまったけれど、きっと必ず確実に私と子供達のそばにいてくれるはずなので、負けないで頑張っていきたいと思っています。

東日本大震災での経験、支えてくれている世界中の方々の優しさと温かさを忘れる事なく、いつか自分達も誰かを支えてあげられるような心の持ち主になれるように、一生懸命今を乗り越えていきたいと思っています。

本当に大きな愛を有り難うございます。絶対に忘れません。

母から（子ども：未就学児）

御寄附をお寄せいただいた方へ

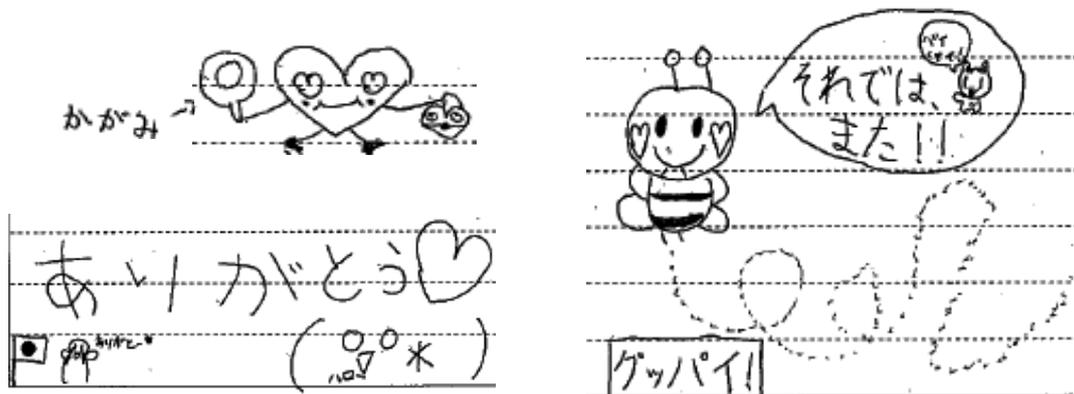
東日本大震災みやぎ子ども育英募金に御寄附をお寄せいただき、本当にありがとうございます。あの地震を思い出すとまだ胸が苦しくなります。

しかし、多くの方から御寄附をいただき、私たち家族は経済的に大変助かっております。まだ気持ちが完全に落ち着くことはありませんが、世界中からたくさんの支援をいただき、「私は1人じゃないんだ!!」と思うと勇気がわいてきます。

これから息子達が成長し、1人親であることに不満をぶつけてくることもあるかもしれませんが。その際は、世界中から私達は思っただいただいているということを出し、がんばって生きていきます。

たくさんのご支援、本当にありがとうございました。

母から（子ども：未就学児，小学生）



このたびは、みなさまからの支援金、本当にありがとうございました。

あの日から一年半たった今も、まだ現実と思えない日々を過ごしています。仕事をしながら1人で育てるということがどんなに大変か、これまでそうして生きてきた人もたくさんいる中、私もその中の1人になってしまった事を痛感しています。

子供2人は元気です。一緒に成長を見守りながら生活していきたくはあったけれど、無理なのでせめて近くから子供たちを見守っていつてくれると信じたいです。

みなさまからの支援金は本当に感謝します。

これから中学になるにつれて教育費がかかるといわれているので助かります。

本当にありがとうございました。

母から（子ども：未就学児）

御寄附をお寄せいただきまして、ありがとうございました。

私達の主人がいた当たり前の生活は、あの震災以来もうありません。子供たちも戸惑い、ストレスを感じている様子がうかがえます。

しかし、いつまでも悲しんでばかりでは天国の主人も喜ばないと思い、今は小さな1歩をあゆんでいます。

我が家は長男が3才、次男が1才の時に震災でしたのであまり覚えていないかと思いましたが、長男は「地震がきたら、家族みんなを守るんだ!!」と言ってくれます。母親としても、ものすごくはげみになります。

毎月いただく支援金のおかげで、安定した生活が送れています。本当にありがとうございます。これからもみなさんのお気持ちを大切に、一生けん命生きていこうと思います。

母から（子ども：専門学校生）

息子は現在、自動車整備専門学校2年生です。1級整備士を目指して、4年学生を選択しました。

東日本大震災で勤務中の夫を亡くしました。真面目で責任感の強い夫は、震災時、会社全員の避難誘導にあたり、津波にのめられました。

夫は、日ごろ一人息子である子供をものすごくかわいがっておりました。一心同体で過ごしていたので、息子の心のつらさは手に取るようにわかりましたし、言葉になりませんでした。

そして1年半が過ぎた今、皆様の心あたたまる支援を受け、毎日通学し、アルバイトをし、自分の夢である整備士に向け、日々頑張っております。私一人の収入ではなかなか大変ですが、この支援金に助けて頂いております。本当にありがとうございました。私も少しずつ恩返しをしたいと思い、仮設住宅中心にボランティアをさせて頂いております。

息子の夢を後押しして頂き、私の心の不安をとって頂き、心から深く感謝しております。ありがとうございました。

母から（子ども：大学生）

東日本大震災による津波で夫を亡くしました。多大なる御支援をいただき心よりお礼申し上げます。

次女は当時高校の卒業式を終え、明日に後期日程の大学受験を控えていましたが、受験できず一年間浪人生活を送りました。今年の4月に無事に大学に合格することができ、楽しそうに大学生活を送っています。

私には仕事（パートタイマー）もあり家も無事でした。私たちに比べるともっと大変な方がたくさんいらっしゃいます。これからも御支援を続けてくださるようお願いいたします。

父から（子ども：小学生）

この度の震災により、最愛の妻を亡くしました。

あの時から早くも一年が過ぎ、息をする事さえ大変だった頃に比べて、ずいぶん町もきれいになってきた様です。

今回の「みやぎ子ども育英募金」は本当にたすかっています。正直な話、市からの支援金などではどこにも足りないという現実、亡くなった妻のことだけでも、墓地代、墓石代、葬儀代、仏壇代、etc…。亡くなった人間に一時金のみで残された家族にはこれから家のリフォーム、家財道具、etc…と問題が山積みです。しかし、残った家族で亡き妻を大切にするという気持ちだけが、今の自分たちに出来る事と思い、日々、前に進んでいます。

子どもたちにも、感謝の気持ちをペンにとり書かせたいのもやまやまですが、あの時の事を思い出させたくないという親としての私の一存で、家族代表のメッセージとさせていただきます。

この度の「はからい」に感謝し、これからもがんばっていく所存でございます。本当にありがとうございます。

父から（子ども：小学生）

私は現在54才の会社員です。東日本大震災により、妻、長男を亡くし、家も流されました。私と長女、祖母が免れ、みなし仮設（アパート）に住んでいます。長女は、今年小学校に入学し、元気に通っております。将来については、元の場所（かさ上げ地区）に家を建て、3人で元気に暮らすのが目標です。あと何年かかるか分かりませんが、娘のすこやかな成長と、家の実現のためにがんばっていきたいと思います。皆様のご支援、誠にありがとうございます。

父から（子ども：小学生）

この度は、みな様の御寄付を支援金・奨学金としていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

おかげ様で、今年の春、娘が卒園し小学一年生になりました。家では祖母、私の姉などの協力を得て何とか生活しています。正直なところ、この先、子どもがどう育っていくのかとても不安です。

娘が安定した生活、自分の夢に向かって勉強できるように、支援金を活用させていただきたいと思います。

本当にありがとうございました。

父から（子ども：専門学校生）

大変お世話様です。おかげ様で、息子も4月に専門学校に進学することができました。これも皆様のお心添えと深く感謝いたします。毎日楽しく学園生活を送っています。社会人になったら、皆様の力になれるように頑張っています。今後ともよろしく申し上げます。

父から（子ども：中学生）

みやぎこども育英基金支援金を有難く頂いております。

義父母、妻、私、子供2人の計6人の家族で暮らしておりましたが、この震災で私と子供1人の2人だけの家族になり、私の勤め先の場所の関係から、地元を離れて暮らすようになりました。

最初は、欠席とかも何日かありましたが、今は表面上は何事もなく、毎日学校に通っております。

以前から、バスケットボールを本人はやりたかったみたいですが、こちらに引っ越してきてからそれが実現して、本人はとても真剣に取り組んでおります。

最近、特に心配なことが出てきました、成績が伸びないことと、その原因が本人の心のさびしさではないかということです。もしそうであるならば、私の仕事の方を縮小するか、あるいは仕事をやめて、100%彼に向き合うことをしなければならぬかもしれないということです。いろいろな機関の電話相談とかも利用しながら、今後の対応を決めていきたいと思っております。

半年後に高校受験をひかえており、切羽詰っております。

父から（子ども：小学生，中学生，高校生）

御寄付をお寄せいただいた方へ

震災の津波で妻を亡くし、早いもので1年半が過ぎました。

現在、私の家族は、高校生、中学生、小学生の3人の子供と、義理の父の5人で生活しております。

高校3年生の長女は、希望する進路に向けて、また中学3年の次女も高校受験と学習に励んでおりますし、小学6年生の長男は、スポーツ（野球）が大好きで、土・日曜日の休日は全て練習に通い、健康な体と心を鍛えております。

子供たちにとって母親がいないことは、日常の生活や学校生活、心身に大きな影響を与えることが容易に想像がつくことですが、今のところ、家族及び子供同士で協力し、支え合いながら生活しており、安堵しているところです。しかし、子供の精神的不安がどれぐらいあるのかは想像できませんし、男親一人での仕事と家庭の両立も必至で、高齢の義父に負担が掛かっていることも現状です。

震災以降、以前までの収入が半減近くなり、経済的に苦しくなることが必至ですが、気持ちとして自分の収入と貯蓄で何とか生活しようと頑張っております。幸いにも私は仕事を失うこともなく、家屋を失った方々に比べると、まだまだ幸せな方かもしれません。しかし、これから3人の子供の教育には、たくさんの費用が掛かることから、皆様からいただいた御寄付は大切にに使わせていただこうと思っております。みなさまからこうして御寄付をいただき、たくさんある不安の一つが軽減でき、大変感謝しております。

本来であれば、子供達それぞれ、皆様にお礼をしなければいけないところですが、家族を代表し御礼申し上げます。

これからもお世話になりますが、宜しく願い申し上げます。

父から（子ども：高校生）

H23. 3. 11、津波で一瞬にして妻が亡くなり、自宅も流出全壊、衣類もなく、お金もなく、その後、ボランティアの方の応援やいろんな方からの生活物資などいただきありがとうございます。

最初は、衣類がなく、物資の方面でたすかりました。その後お金もなく避難所の生活はとても大変でした。その後、仮設住居に移動し、少し落ち着き、娘も学校の制服もなく、教科書も授業料、交通費もなくなり、生活費を優先にしていました。

みちのく、市広報にみやぎこども育英基金に申請し、支援金を娘の学費、交通費、弁当代に使用しております。いろいろありがとうございます。

妻の分までがんばり、無事娘を高校卒業させてあげます。

父から（子ども：未就学児，小学生）

まず、今回たくさんの方々の御寄附等、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

自分には子供が2人います。震災で母親を亡くしましたが、つらい顔を見せず毎日学校へ通っています。家族も子供の元気な姿からパワーをもらっている現状です。そんな子供達に負けないう、前に向けてがんばっていこうと思います。

今回のこの御寄附が何年後何十年後までの私達へのエールだと思い、がんばっていきます。本当にありがとうございました。

父から（子ども：高校生）

ご支援ありがとうございました。

震災から1年半が過ぎましたが、前に進んでいるのかどうか自分にもよくわかりません。

忘れてしまいたいのが震災。忘れてはいけないのが亡くなった家族のこと。

どうやってのりこえてゆくか？出来ることから、ひとつずつです。

ご支援本当にありがとうございます。大切にに使わせていただきます。

父から（子ども：小学生）

この度は、温かいお心づかいを頂きまして、本当にありがとうございます。

別れた妻を津波で亡くし、妻と一緒に生活していた子供たちは小学校にいて無事でした。私はその子供たちを引き受け、ほぼ7年ぶりに一緒に生活することになったわけですが、その間に私も再婚して子供も一人授かりました。私も努めて子供たちと接していますが、現在の妻にも前妻の子供二人の面倒を見てもらっており、私には想像のできない心労や苦勞をかけてしまうことになりました。妻は不平不満を言わずに、運命を受け入れてくれました。本当に頭が下がります。そんな中ですが、奨学金を頂けたことで経済的な負担だけはかけずに済んでおり、本当に助かっております。

私は、震災後にもう一人子供を授かりました。年齢も離れ、母親も異なりますが、四人兄弟となりました。上の子供たちには兄の自覚が生まれ、下の子供たちの面倒をよくみてくれるようになり、徐々に一つの家族としてやっていけるような感じがしている所です。亡くなった妻の実家との交流や、現在の妻と子供たちの関係など、これからもずっと気を遣う所はありますが、子供たちには震災を経験した人間として、震災からの復興に向かって、これからの社会を担う人になって欲しいと考えています。そして、私は亡き妻の思いを受け継ぎ、奨学金を有効に使いながら、親としての責任を果たしていきたいと思っています。

祖父から（子ども：中学生）

拝啓

平成23年3月11日の東日本大震災から早1年半になります。その当時を振り返って、（故）長女、孫、私夫婦の4人で暮らしていました。家は安全地域で無事でしたが、娘は仕事（訪問介護）中でした。行方不明が2週間で、訪問宅で一緒にいて、最後まで介護をして守り続けたようです。孫も小学校から中学校への入学準備等をしなければなりません。半年後に私達が孫の後見人の手続きをして今現在後見人になり日々暮らしています。学校の部活はサッカーをして、孫も昨年7月中旬から約1週間スイスに、今年も7月末から2週間シアトルへ海外2回ホームステイに参加することができ、家族で喜び、皆様から支援・義援金を頂きまして、本当に有り難うございました。

これからも孫のためにも教育等に利用させていただきます。本当に有り難うございます。

祖父から（子ども：中学生）

月日の経つのは早いもので、昨年3.11大地震大津波で家は基礎だけ残し流失し、着のみ着のまま車で妻と上の孫と下の孫を迎えに学校の体育館へ行きました。下の孫を乗せて道路に出ると堀から少々黒い水にはさまれるような形になりました。よその家の庭の前を通ると玄関ドアが開いており、誰かが家へ入ってもいいと叫んでくれました。すぐ土足で2階にかけこみました。私ら家族4人の他に10人、小学生の子ども達、お年寄り達とその夜2階の一室で明かしました。

あれから1年6ヶ月、あちこち転居し、ようやく皆さんのおかげで自分の家を持ち落ち着いた感じですが。民間、公的機関による支援の皆さん、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

全国からの支援金や物資等なんとお礼を申しあげたらいいか、頭が下がる思いで本当に助かっており、ありがとうございました。上の孫も今年で中学も終わりに近づき、受験勉強にいつそう努力をしており、下の孫も負けじと勉強に塾へと打ち込んでおる状態です。今のところに住む前は、6帖二間とリビング10帖位で、5人で住むには大変せまく、荷物を置くとなおさらせまいアパート暮らし。8ヶ月がまんして今の新居へ引っ越してきました。孫達にも部屋一つずつ用意してやり、勉強によりいつそう頑張らせていただいております。学校へもいっくらか近くなりました。自転車通学ですが雨風の日には私が近くまで車に乗せていきます。日もだいぶ短くなりました。家に着くのは6時40分頃です。毎年運動会は5月だったのですが、今年は残暑厳しい9月にありました。玉入れ、綱引き、徒競走、騎馬戦等楽しく一日を過ごしてきました。乱文乱筆にて、まだまだ残暑厳しき折、関係者方々健康には十分注意してお過ごしください。また今までどおりよろしくお願い致します。

祖父から（子ども：小学生、中学生）

震災で両親を失った孫二人（中学1年の男子と小学5年の女子）と同居し、早1年半が過ぎました。

中学1年の孫は、サッカー部に入り、小さい身体ながらボールを追いかけて日夜がんばっています。

小学5年の孫は、体育が好きで残暑に負けず元気いっぱいがんばっています。

皆様方のご厚情に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

祖母から（子ども：小学生）

東日本大震災から1年6ヶ月になろうとしています、思い出しては悲しい気持ちになったりはしますが、しかし悲しんでばかりもいられないので、忘れようとも思います。皆様方に支援金を頂き又色々とお励ましの声も頂き本当にありがとうございます。

中学校に通う孫も野球部に入部し、又、陸上、駅伝競走等スポーツに頑張っています。私達の励みにもなっています。皆様方に支えられ、孫のために支援金を使用させて頂いています。今後共、宜しくお願い致します。

祖母から（子ども：中学生）

皆様からのありがたいご支援、心より感謝致しております。

孫は祖父、母親、姉の3人を震災で亡くしました。本人は学校にいて助かりました。助かったとはいえ、家族3人を亡くした子どもの気持ちを考えた時、本当に心配しました。祖母の私と父親との3人の生活になりました。家も家族もなくし、残された3人で移り住むことになりました。学校も変わったのですが、幸い部活に野球をしておりましたので、すぐにこちらの学校でも仲間に入れてもらい、遅くまで真っ黒になって野球にあけくれております。スポーツをしていたことで本当に助かりました。友人もでき学校には喜んで行っているように見受けられます。

大人にとっても、子どもにとっても、この度のことは大きな試練でした。でも悲しんでばかりはいられません。3人で前向きに生きていこうと思っております。私も孫がせめて成人するまでは、どんなことがあっても元気に見守ってやりたいと思っております。今後もお世話になることと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

祖母から（子ども：小学生）

あれから1年半が経ちました。

必死にダイヤルを回し続け、探し、絶望し、孫一人が助かっていたことに一筋の光を見、あつという間の出来事でした。

孫を引き取り、卒業していた子育てが始まりました。学校行事、地域の行事、大変な時もありますが、今ではいなくてはならない大切な家族です。高校を卒業したら、故郷の大学に行って、そこから自立を始める予定にしています。課せられた負担は重いものだと思いますが、頑張るしかないと思っています。その頃には復興が進んでいて、安心して生活できるようになっているよう望んでいます。

多くの方々から御支援していただいたお陰で今があります。ほんとうにありがとうございました。もう少し大きくなって、少しでも人の役に立つことができればいいね、と話をしています。先のことは本当に不安でどうなるかわかりませんが、共に助け合って、見守っていきたいと思います。

祖母から（子ども：大学生）

祖母で後見人です。いつもたすけていただきありがとうございます。孫といつもむだづかいせずがんばろうと言ってます。大学も六年間なので私も元気であるようにと気をつけています。

祖母から（子ども：小学生）

全国の皆様から、お礼の言葉を言いつくせないほどの支援をいただきありがとうございます。

母親を亡くし義父とは1年ほど暮らしたのですが、残念としか言いようがありません。

学校に迎えに行った母親が歩道橋の上にいたんだよと孫がテレビの放送で見えています。津波にさらわれてママが！それを学校で見っていた孫達はかわいそうでたまりません。

私ども（祖父母）で育てています。老いた身での子育ては大変です。施設にやったらこうして毎日笑ったり泣いたり、食べたいものを自由にすることもできないだろうなあと、老いた身にむち打ちながら育てております。援助いただいた分は後に残るようにと貯金して大学に使うようと思っています。あと何年生きられるかわかりませんが、大人になるまでと頑張っています。

地しんが来たら逃げてください。もらった命だけ、家も何もかもなくし、思い出も、友人、嫁の父も、近所の方大勢亡くし、大事な娘も亡くし、毎日お仏と向き合い、仮設に住み、家族別れて暮らしております。昔がなつかしい。

津波は少しでも逃げてください。

祖母から（子ども：大学生）

はじめまして、いつも御支援ありがとうございます。私の家は以前5人暮らしでした。平成19年、元気な姿で「お風呂に行って来る」と言って孫の父は出かけました。その3時間後、突然心筋梗塞で帰らぬ人となり、孫は15才でした。家族みんな、何が起きたかわからず、黙々と葬儀の準備をした事だけ覚えています。その後娘がなかなか立ち直れず部屋にこもるようになり、私がパートを勧めました。45才でしたので、なかなか仕事は見つかりませんでしたが、ある時パート募集を見つけ行って見たところ、勤めることが出来ました。少しずつ気持ちが落ち着きかけた時でした。

今度は、震災です。また孫は母をもぎとられ、18才で両親がいなくなっていました。父が亡くなった時と同じように、昼すぎ「パートに行ってきます」と言って出かける時の後ろ姿が寂しそうでした。今でも私の目の奥に残っています。あの時娘に仕事を休むように言えばよかったと後悔しています。地震の後孫は母にメールを送り、自分と祖母は避難所へ行くことを伝えたと伝えていました。祖父はわからないと。

その後主人とは連絡がとれ、主人の実家にいることがわかりました。孫と一緒に避難したものの、避難所では3日間満足に食事も取れず、主人の実家に帰りました。その日から、娘を捜しに、雪が降る寒い中、ガソリンを気にしながら、津波の避難所を回りました。10日程たったころ、娘の車が発見されました。現場に行ってみましたが、娘は乗っておらず、娘の死を確信しました。その後、毎日遺体安置所へ探しに行き、今まで70年近く生きてきましたが、これだけの死体を見たことはありませんでした。孫に死体を見せるわけにはいきませんので、私1人で回りました。

娘が見つからない中、孫は岩手に行く日が近づいていました。平成23年4月大学へ、入学式もなく、孫は1人で登校しました。本当に寂しかったことと思います。幼稚園、小学校、中学校、高等学校の入学式はいつも娘と一緒に楽しそうでした。大学の入学式を楽しみにしていた娘は、本当に無念の思いで亡くなったことでしょう。

娘は4月27日、震災から48日目に見つかりました。警察の方が見つけてくれたそうです。4月30日対面する事ができました。娘の顔を見た時、自分の子供だと思えないくらいでした。あと20分身元がわからなければ、身元不明のまま東京で火葬が決まっていたそうです。娘に会うことができ、見つけて下さった方々に本当に感謝しています。

話は前後しますが、岩手に行くうえで必要な家財家具を揃えるのに、4月10日までかかりました。4月15日車いっぱい積んで岩手に送って行きました。孫は今まですべてのことを自分でしたことがなく、家族が助けてきた孫を1人にして帰る時は、本当に心配で、後ろ髪をひかれる思いでした。家に着いたら電話をするからと言って顔も見れず、別れて来ました。あの日のことを思うと、今でも胸が苦しくなります。次の日から朝と晩に1日2度電話をかけて様子をみました。ホームシックにもなったようでしたが、一度も学校へ行きたくないと言った事はなく、今は学校にも慣れたようです。孫も20才になり、私達の未成年後見人も終了しました。今は、思いやりのある優しい孫を授けてくれた両親に感謝しています。健康で学校も楽しそうです。今は問題はありません。

伯母から（子ども：小学生）

ご支援ありがとうございました。今はまだ小学2年生なので義援金は使っていませんが、これから成長の過程で必ず使う時が来ると思いますので、その時まで温めておきます。

ボランティアの方々、身近な方、皆さんに支えられて息子は本当に元気にしてもらっています。小学校1年生の時は1日も学校を休まず皆勤賞を頂き2人で喜びました。2年生になって今現在、お腹の風邪で1日休んだだけです。たまに算数がいやで学校に行きたくないといっております。車とかバイクが好きなようなので「大きくなったら勉強しないと免許とれないんだよ。免許ないと車もバイクも運転できないんだよ」と言うと、「あ～、う～ん」と元気がない返事をしております。休日は2人でアウトドアを楽しんでいます。

今のところ元気です…。

有り難うございました。これからも宜しくお願い致します。

伯母から

私たち夫婦の立場から、このたびの支援金は本当に有難いです。

姪の将来のために大事に使わせていただきます。

来年は受験生、なるべく本人が希望している学校には入れてあげたいのですが、私たちの経済的では限界が見えてくると思う時に、この多くの人たちの善意を使わせていただきます。

本当に言葉では足りないくらい有難うございました。本人が大人になった時に、多くの人たちに助けていただいたと分かる時が来ると思います。

伯父から（子ども：中学生）

育英募金の御寄附をいただき、心より感謝申し上げます。

大震災により、姪は母と弟をなくしました。中学2年生の姪は、私、伯父の家族と生活を共にしています。突然、中学生の姪との生活となると大変なことがいろいろでできます。本人は悲しい姿は見せず、不登校にもならず、クラブ、勉強に頑張っています。うちら家族としては、どう接すればいいのかなど、心が痛むことがいっぱいあります。

現在は仮設住宅に住み生活しています。先行きもまだ見えていません。経済的にも不安定な中、生活しています。

そんな中、育英募金に御寄附をいただき、本当にありがとうございました。

親族から（子ども：小学生、高校生）

みやぎこども育英基金支援金をいただき誠にありがとうございます。皆様からの善意と受け止め有効に活用させていただいております。

震災から1年半が過ぎ、あのときの想像を絶する恐怖と惨状の記憶が風化しつつあるように思える近況ですが、当時、私の兄夫婦は、中学の卒業式で休みをとっており、二人共に被災致しました。義姉は、約2週間後、兄は更に1週間後に遺体で発見され、行方不明者が大勢いる中見つかったことが良いのか悪いのか、何とも言いようのない思いをしたのを今でも鮮明に覚えています。今思えば、姉が見つかった後で何処かで何とか生きて欲しいと強く思っていたのがそう感じたのかもしれませんが。

今二人の子供（男子と女子）は、親の分まで精一杯生きようと日々祖母と一緒に3人で生活しております。

男の子はテニス部に入り、女の子はバレー部とともにレギュラーを目指して頑張っています。

みやぎこども支援金は、部活の用具など購入したり有効に活用させて頂いております。

二人とも物事の良し悪しが判断できる年齢でもあり、このような支援金の有り難さも感じているようです。被災した地元の復興にもまだまだ時間が掛かりそうですが、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

親族から（子ども：大学生）

3. 11 東日本大震災、大津波、自然の猛威、恐怖、悪夢、悔しいけれど現実でした。

直後、本人の希望、そして児童相談所の御指導もあり、養育里親としてこのひとり残された私の実家の孫を引き取り、生活を共にすることになりました。

被災後の後始末、残された高校生活、卒業後の進路等、頭の中が混乱する中で、高校の諸先生方、市福祉関係の皆様方等、各方面の方よりアドバイス、御指導をいただき、また、全国の支援団体、財団関係の皆様より温かい御支援、御指導を賜り、本当に有難く心より厚く御礼申し上げます。

本人は私どもの所に来た当初から、家族7人を一瞬にして失ったショック、悲しみ等は曖気にも見せない芯のしっかりした明るく笑顔の可愛い努力家で、成績は学校で1、2を争う位、友人も多く、ちょくちょく家に連れてきては一緒に食事したり、泊めてやったりしておりました。まだ始まったばかりの勉学半ば、志半ばではありますが、頑張り屋のこと、必ずや自身の目標、夢を叶えてくれるものと確信しております。

現在御支援、応援いただいております各関係団体、財団の皆様には尚温かい目で見守っていただき、これからも御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

親族から（子ども：小学生）

無我夢中だったあの頃は夢のようにすぎて、不明の家族4人も無事見つけることができました。時間がたつにつれて少しずつ気持ちの落ち着きが出てきました。

多くの皆さまの御協力をいただき、また、支援金・奨学金は年金暮らしの養育者にとっては、子供の将来を考えた時、何よりも心強く助かります。

我家の一員になった娘はそろそろ反抗期にもなり、毎日のドタバタの中で地域のお友達にかこまれて元気に学校へ通っています。

皆々様の思いを大切に、心に刻んでいきたいと思います。ありがとうございます。感謝いたします。

親族から（子ども：小学生）

お世話になっております。

私達も一時はどうしたらいいのかわかりませんでした。全国の皆様や学校関係など色々な所、人たちから助けられ本当にありがとうございます。

これからも家族協力してがんばっていきますので、よろしくをお願いします。

親族から（子ども：小学生）

日頃は皆様方に厚いご支援を賜り、深く感謝致しております。

昨年の東日本大震災により、両親、兄を亡くし、現在、母方の大叔母である私共夫婦と一緒に暮らしております。私共も共に被災し避難生活をしてまいりましたが、本年7月末にリフォームした自宅に帰ることができ、友達と一緒に元気に通学し、遊んだり、野球少年チームに参加したりして過ごしております。

震災以来、両親や兄を慕って私共を困らせたということはなく、本人も奥深い胸の内を語ることもなく、私共も驚くほど明るい生活をしております。これから思春期を迎え、どのような心の変化を示すかはわかりませんが、今のところ身体だけは丈夫に毎日をすごしております。

そうした生活ができますのも皆様方の物心両面からの御支援の賜物と深く感謝している次第です。公的及び私的な多大な御支援と励ましの言葉が、私共の生きる力となり、子供の生きる力になっていると考えております。

今後共、宜しく御支援賜りますよう、御願い申し上げます。

親族から（子ども：専門学校生）

1年半前の大震災で実妹を亡くしました。

（実妹は）母、子の2人暮らしで生活をしていて、母親が亡くなり子供1人になったため、めいを引き取ることにしました。

めいはその時高校生で、進学するのにお金が必要になるし、どうしたらよいのか途方にくれている中、育英募金があることを知り、支援金を活用させていただきまして、今年高校卒業後、夢であった専門学校へ入学することができました。

今は充実した学生生活を過ごし、勉強に励んでいます。いきいきしているめいを見ると心強く安心している幸いです。一度あきらめていた進学、このような支援金のおかげで入学ができて本当にたすかりました。

皆様からの善意、誠にありがとうございました。

親族から（子ども：中学生）

この度は、本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。息子は夏休み、体育祭も終わり、日焼けした体で元気に学校に行っています。皆様のおかげだと思っています。一人一人のあたたかいお気持ちをいつまでも忘れません。ありがとうございました。

親族から（子ども：小学生）

～ 東日本大震災みやぎこども育英募金にご協力いただいた皆様へ ～

震災から1年半が経ちました。孤児になってしまった甥を引き取り、里親としての生活も1年が過ぎました。

私たち夫婦も自宅と車を津波でなくしましたが、2人とも生きて再会することができました。生きていれば自宅や車も前と同じくらいの物を自分達の“がんばり”で再建できるでしょう。失われた命は…。甥は母親がいつか帰ってきてくれると1年近く待っていました。今年に入り「お母さんの死亡届を出そうと思うんだけど。いい？」と問いかけたところ「いいよ。でもお葬式はお母さんの誕生日にしたい」と返してきました。涙が出ました。本当なら「お母さんどこに行ったの?!なんで帰ってこないの?」と責められることを覚悟していたのですが、一度もそういうことがなく、感情がショックでどうにかなってしまったのかと心配していました。生まれて3ヶ月で父を亡くし、今回母までも…。人の死に対する感情がないのではないだろうか、カウンセリングを受けるべきかどうか悩みました。そんな時、夜中に布団を出て部屋の外で体育座りをしている甥を見つけました。「どうした?お母さんのこと思い出した?」と聞いたら「お母さんのこと守れなかったから悔しいの…」と目に涙を浮かべていました。この子は誰を責めることもせず、自分を責めていたのだとその時思いました。少しずつ母の死を受け入れ、自分の中で消化しているのだと。

4月に6年生になった甥は、この半年で心も体も成長しました。

欲があまりなく「野球の試合で勝ちたい」「テストの点数を上げてほめられたい」という気持ちが見えてこないのが心配ですが、その分、人への優しさがある子なので見守っていきたいと思います。

子供のいない私たち夫婦にとって、全てが手さぐりです。学校での“ママ友”スポーツ少年団野球チームの“ママ友”そして様々な育英金・応援金で支援していただいているみなさまに感謝しております。

すべての子供は地域の宝、未来の光です。

良いことも悪いことも自分の子供と同じようにほめたり叱ったりしてあげてください。もしかしたらその子がウチの子かもしれません（笑）

【編集後記】

メッセージをお寄せいただいた皆様には、個人が特定されないよう県の責任において編集をいたしましたことを御了承願います。

〒980-8423

仙台市青葉区本町三丁目8番1号

宮城県教育庁 総務課

電話 022-211-3611

〒980-8570

仙台市青葉区本町三丁目8番1号

宮城県保健福祉部 子育て支援課

電話 022-211-2633

アリビョ

3才